

第2章 出火原因別火災状況

1 放 火

抽出条件：経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火 *」、「921 放火の疑い *」

- 前年と比べて、放火火災の件数が15件増加しました。
- 夕方から深夜にかけて、放火の割合が高くなっています。
- 地域別放火火災発生状況を見ると、100件以上発生している地域はありません。

(1) 火災状況

放火（放火の疑い*を含む、以下同じ。）による火災は、昭和35年から昭和51年までは、たばこに次いで出火原因の第2位でしたが、昭和52年から出火原因の第1位となっています。

平成29年中の火災件数は896件で、前年と比べて15件増加し、平成20年（1,809件）と比べると火災件数はおよそ50.5%減少しています。

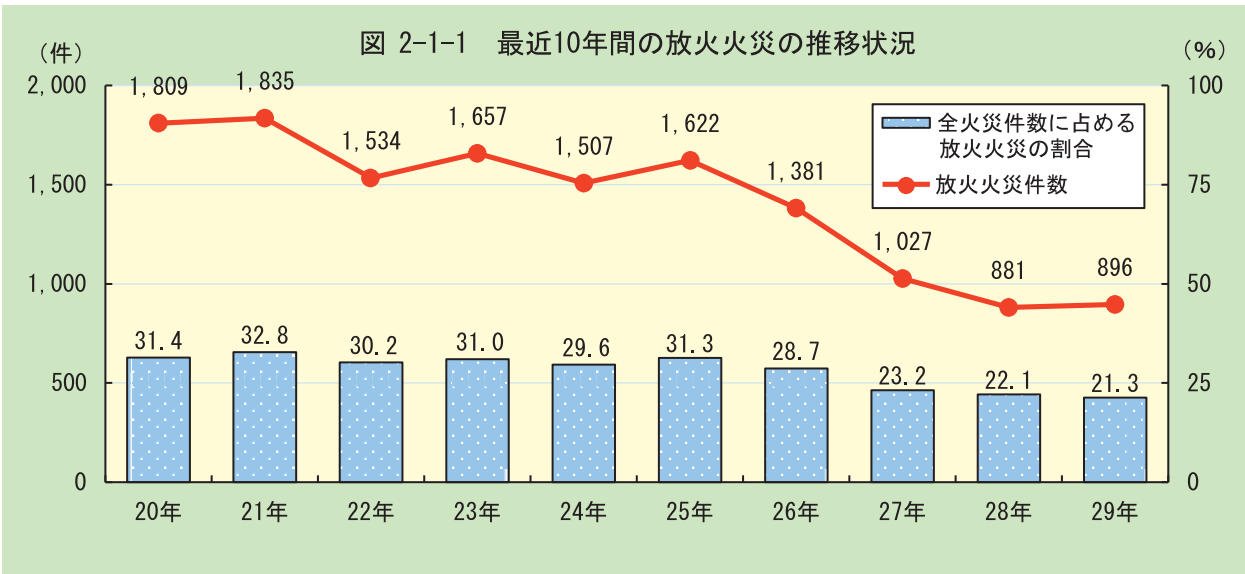
また、全火災件数（治外法権火災1件を除く、以下同じ。）に占める放火の割合は21.3%で、前年の22.1%と比べて0.8ポイント減少しています。

火災種別ごとにみると、前年と比べて林野火災が3件、その他の火災が55件それぞれ増加しましたが、建物火災は33件、車両火災は8件、船舶火災は2件それぞれ減少しています。

次に、損害状況をみると、損害額は前年と比べて減少し、最近10年間で最少額となっています（表2-1-1、図2-1-1参照）。

表2-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火 災 件 数										損 害 状 況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
20年	1,809	807	31	18	113	645	3	92	-	907	4,804	2,193	911,662	28	143
21年	1,835	745	26	18	118	583	-	94	-	996	5,779	2,179	981,769	36	105
22年	1,534	646	25	10	92	519	1	69	-	818	4,052	1,870	677,432	18	80
23年	1,657	632	30	22	99	481	3	75	-	947	5,027	1,580	700,670	25	107
24年	1,507	615	28	6	82	499	1	54	-	837	3,746	1,202	604,385	26	77
25年	1,622	640	30	10	76	524	1	49	-	932	3,709	1,499	633,398	16	82
26年	1,381	510	15	10	77	408	1	62	-	808	3,697	1,585	529,165	19	69
27年	1,027	382	8	8	58	308	1	54	-	590	2,036	1,388	556,067	18	60
28年	881	384	14	14	47	309	-	39	2	456	3,501	732	328,668	24	73
29年	896	351	7	7	49	288	3	31	-	511	1,608	1,003	275,259	14	57



注 全火災件数は治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

(2) 放火火災の傾向

ア 月別と時間別の発生状況

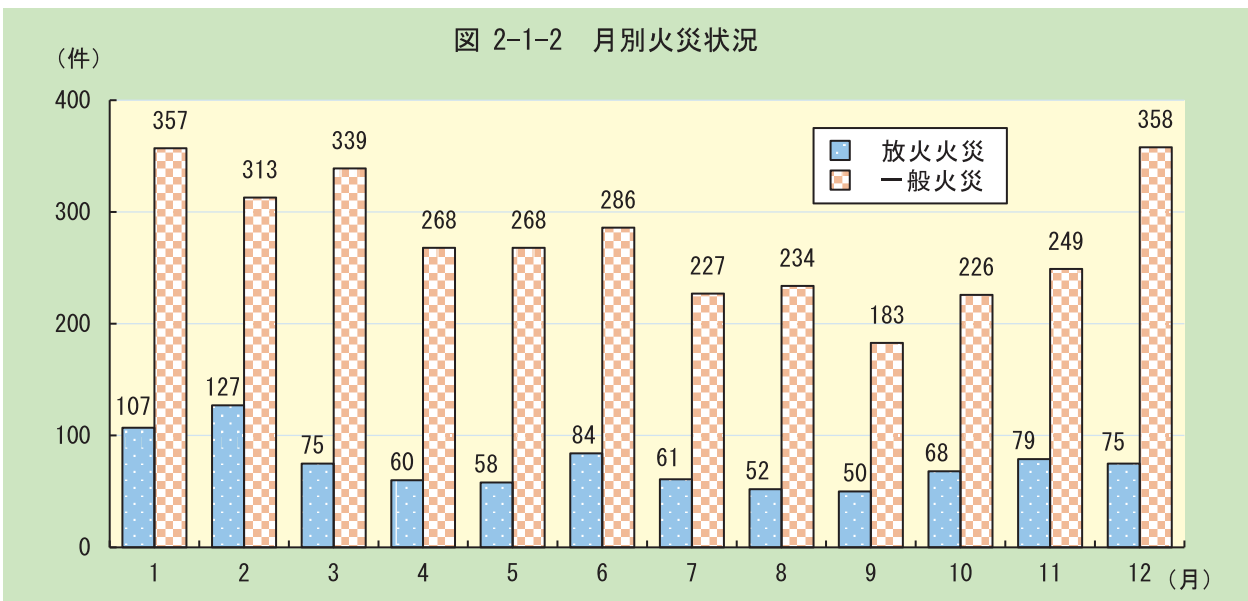
(7) 月別発生状況

放火以外の火災(以下「一般火災」という。)と放火火災の月別発生状況をみたものが図 2-1-2 です。なお、治外法権火災の1件は除いています(以下同じ)。

一般火災は、1月及び12月が350件を超え、9月が最も件数が少なくなっています。

放火火災は、2月が最も多く127件発生しており、9月が50件で最も少ない件数となっています。

また、各月の火災件数に対する放火火災の占める割合をみると、概ね17%から29%を推移しており、2月が28.9%で最も高い割合となっています。

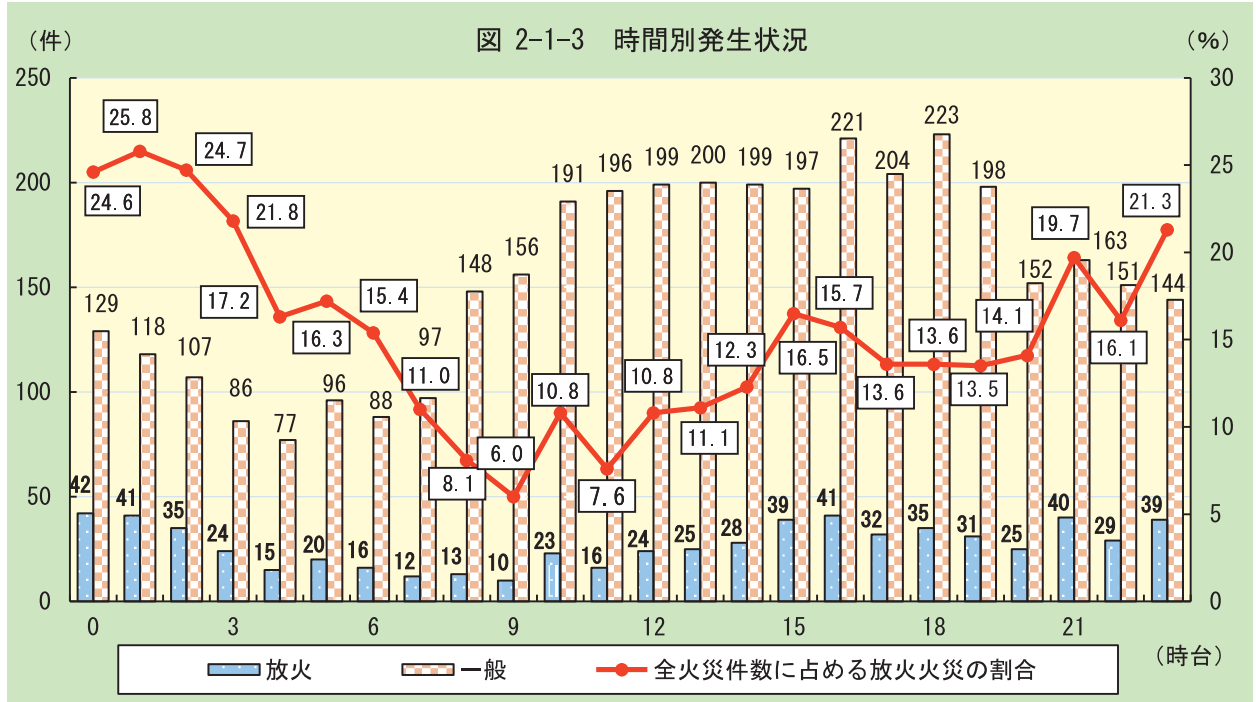


(1) 時間別発生状況

全火災件数のうち、出火時間が不明の464件を除いた3,740件の火災について、放火火災と一般火災の時間別発生状況をみたものが図2-1-3です。

一般火災は人々が活動する日中に多く発生しているのに対して、放火火災は日中は少なく、日が沈む夕方から人々が睡眠している深夜の時間帯に多く発生しています。

23時台から3時台までの火災件数に対する放火火災の占める割合は高く、2割前後を推移しています。



事例 住宅車庫内のオートバイ等に連続で放火された火災 (11月)			
構造・用途	その他 1/0 車庫	出火階・箇所	1階・車庫
焼損程度	建物ぼや1棟 オートバイ2、ボディカバー、段ボール等焼損		
この火災は、車庫1階のオートバイから出火したものです。			
自宅にいた居住者の男性は、外から爆発音が聞こえたため、外を見ると車庫のオートバイから火が出ているのを発見しました。			
出火原因は、何者かが何らかの火源を使用してオートバイのボディカバーに放火したものです。同一地域内で空家、オートバイ、扇風機等が燃える火災が、当日だけで5件発生しています。			

イ 放火場所 (出火箇所) と着火物

放火された場所 (出火箇所) を、建物関係 (主として建物の箇所)、建物関係以外 (主として建物以外の箇所) に分けてその着火物をみたものが表2-1-2です。

表 2-1-2 着火物別放火場所（出火箇所）

放火場所 (出火箇所)	合 計	紙	ご	合	枯	く	織	車	木	原	壁	建	床	引	付	家	そ	不		
		・ 紙 製 品	み く ず	成 樹 脂 ・ 合 成 樹 脂 製 品	草 ・ 落 葉 ・ 立 木 ・ 芝 草	ず 類	維 類	両 関 係	質 物	木 ・ 廃 材 等	材	具 材	材	物 類	帯 設 備	具 等	の 他	明		
合計	896	192	144	123	117	84	78	30	28	13	9	6	5	5	3	2	12	45		
建物関係 (主として建物箇所)	小計	323	99	25	44	3	28	49	6	8	2	9	6	5	2	1	-	2	34	
	共用部分	133	57	11	18	2	14	11	1	2	1	4	2	2	-	-	-	1	7	
	居住関係	75	20	2	6	-	1	24	-	1	-	-	-	2	2	-	-	-	17	
	倉庫・物置	25	9	8	1	-	2	2	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
	建物の外周部	21	2	1	8	-	-	1	-	2	-	3	3	-	-	1	-	-	-	
	車庫・駐車場	20	2	1	7	-	3	-	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
	ベランダ・屋上等	15	1	1	1	-	3	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	休憩室	9	2	-	-	1	3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	店舗・客室関係	7	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	
	事務室等	7	2	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
	空家・工事中建物	6	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
作業関係	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
上記以外	3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
建物関係以外 (主として建物以外の箇所)	小計	573	93	119	79	114	56	29	24	20	11	-	-	3	2	2	10	11		
	車	車両外周部	7	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
		車内	7	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
		二輪自動車	4	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
	両	原付自転車	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		敷地内	214	29	44	41	33	31	9	5	6	6	-	-	-	2	1	2	5	
	の	公園・墓地	143	33	25	12	41	14	5	-	6	3	-	-	-	-	-	1	2	1
		道路・地下通路	93	20	28	16	5	8	7	2	2	1	-	-	-	-	-	-	4	-
		河川敷	45	1	9	-	29	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1
		屋外ごみ捨場	12	-	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
		屋外駐車場	22	3	3	3	-	1	2	6	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-
		空地	8	3	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		工作物等	5	2	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他	田畑	3	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
	上記以外	8	2	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

放火された場所（出火箇所）をみると、建物関係で323件(36.0%)発生しています。このうち最も多い場所は、廊下、玄関ホール、階段などの「共用部分」で133件(41.2%)発生しており、建物関係の4割以上を占めています。次いで、住宅の居室、台所などの「居住関係」が75件(23.2%)、「倉庫・物置」が25件(7.7%)、「建物の外周部」が21件(6.5%)、「車庫・駐車場」が20件(6.2%)、「ベランダ・屋上等」が15件(4.6%)などとなっています。

建物関係以外では573件(64.0%)発生し、このうち「敷地内」が214件(37.3%)、「公

園・墓地」が143件（25.0%）、「道路・地下通路」が93件（16.2%）などとなっています。

着火物別でみると、本、雑誌、ダンボール等の「紙・紙製品」が192件（21.4%）で、全体の2割以上を占めており、「ごみくず」が144件（16.1%）、日用雑貨等の「合成樹脂・合成樹脂製品」が123件（13.7%）、「枯草・落葉・立木・芝草」が117件（13.1%）などとなっています。

ウ 火災種別ごとの火災件数と損害状況

火災の種別ごとに火災件数と損害状況を一般火災と放火火災で比較したものが表2-1-3です。

損害額を火災1件あたりでみると、建物火災では、放火火災が73万4千円、一般火災が186万4千円、車両火災では、放火火災が32万7千円、一般火災が48万9千円、建物及び車両火災以外の火災では放火火災が1万5千円、一般火災が2万2千円となっています。

建物火災による死者は、一般火災では38.8件に1人、放火火災では50.1件に1人発生しています。

表2-1-3 火災種別ごとの火災件数と損害状況

火災種別	火災件数	損害状況					
		焼損棟数	焼損床面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者	
合計	4,204	3,276	20,719	5,012,509	79	758	
建物	放火火災	351	388	1,608	257,636	7	50
	一般火災	2,486	2,860	1,911	4,632,692	64	671
車両	放火火災	31	5	-	10,134	1	4
	一般火災	185	16	-	90,382	-	13
その他	放火火災	514	1	-	7,489	6	3
	一般火災	637	6	-	14,176	-	17

注 治外法権火災1件を除いています。

エ 用途別状況

平成29年中の放火火災896件のうち、建物から出火した火災は306件（34.2%）となっており、その用途別発生状況をみたものが表2-1-4です。

放火の対象となった建物を用途別にみると、居住系が171件（55.9%）、事業系が75件（24.5%）、居住・事業系以外が60件（19.6%）となっており、居住系では「共同住宅等」、事業系では「病院等」、居住・事業系以外では「共用部分」で多く発生しています。

表 2-1-4 火元建物用途別発生状況

火元の用途 (3 0 6 件)															
居住系			事業系									居住・事業系以外			
共同住宅等	住宅	複合用途の住宅部分	病院等	百貨店・物販等	遊技場	学校	飲食店	事務所	ホテル・簡易宿泊所	停車場	その他	共用部分	付属建物等	空家	工事中の建物
128	34	9	6	5	4	4	3	2	2	2	47	38	16	5	1

(3) 地域別放火火災の発生状況

特別区と受託地区に分けて上位 10 区市をみたものが表 2-1-5 です。

特別区での放火火災の件数を区ごとにみると、100 件以上発生した区はなく、最も多いのは足立区で 84 件となっています。受託地区でも、100 件以上発生した市町村はなく、最も多いのは八王子市で 71 件発生しています。

放火による出火率（人口 1 万人あたりの放火件数）をみると、特別区における出火率の平均は 0.62 件、受託地区における出火率の平均は 0.73 件となっており、件数の多い足立区は 1.2 件、八王子市では 1.3 件となっています。出火率が最も高いのは、特別区では足立区が 1.2 件、受託地区では武蔵野市が 2.2 件となっています。

表 2-1-5 地域別放火火災発生状況

特別区	件数	放火による出火率
足立区	84	1.2
江戸川区	52	0.7
葛飾区	51	1.1
板橋区	49	0.9
大田区	39	0.5
練馬区	35	0.5
世田谷区	32	0.4
江東区	27	0.5
中野区	24	0.7
新宿区	23	0.7

受託地区	件数	放火による出火率
八王子市	71	1.3
町田市	40	0.9
調布市	20	0.9
狛江市	17	2.1
武蔵野市	16	2.2
立川市	16	0.9
府中市	15	0.6
西東京市	12	0.6
三鷹市	10	0.5
青梅市	10	0.7

(4) 連続放火火災の発生状況

平成 29 年中の同一日とその翌日までに、同一地域内で 5 件以上放火された火災の状況を連続放火としてまとめたものが表 2-1-6 です。

平成 29 年中の連続放火火災は前年と同じ回数 of 7 回発生しています。

連続放火火災の主なものとしては、2 月に北区内で車両、建物に連続して 7 件放火され、車両が全焼した火災、11 月に足立区内で建物等に連続して 7 件放火され、建物が全焼した火災などが挙げられます。

また、ここで連続放火火災として定義したもののほか、長期的に同一地域内において広範囲で繰り返されている放火火災もあります。

表 2-1-6 主な連続放火火災の発生状況

回数	月	日	管内	主な出火場所	焼損物件	件数
1	2月		千住	(足立区) 新田	空家、オートバイ、自転車、ガレージテント、ごみ若干等	7
2	2月		王子	(北区) 王子・豊島	貨物トラック、ボディカバー、オートバイ等	7
3	6月		八王子	(八王子市) 上柚木	トイレットペーパー、枯木、ロードコーン等	6
4	6月		狛江	(狛江市) 和泉本町・岩戸北	自転車、オートバイ、ポスター、ビニール傘等	10
5	7月		野方	(中野区) 上高田・野方	ちらし、郵便物、廃材等	5
6	10月		調布	(調布市) 下石原・小島町	オートバイ、原動機付自転車、自転車、祭飾り、ごみ若干等	9
7	11月		千住	(足立区) 千住柳町・千住元町・千住千住仲町	空家、オートバイ、扇風機、紙くず等	7

注 本表は、同一日とその翌日までの間で、同一地域に 5 件以上発生した放火火災を集計したものです。

放火火災の発生件数及び全体火災件数に占める放火火災の割合は年々減少傾向にあります。が、平成 29 年中の連続放火は 7 回発生しており、依然として人命危険は潜んでいます。

夜間にごみ出しをしない、夜間警戒を行う等の活動を行い、地域住民が一体となって放火させない街をつくっていくことが重要です。

2 たばこ

抽出条件：発火源分類コード 「42101 たばこ」

経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く

- 前年と比べて、たばこによる火災の件数が 105 件増加しました。
- たばこにより建物から出火した火災の 7 割以上が居住系用途から出火しています。
- 寝たばこによる火災は 34 件発生し、1 人の死者と 17 人の負傷者が発生しました。

(1) 火災状況

たばこによる火災は、昭和 28 年から昭和 51 年までは出火原因の第 1 位でしたが、昭和 52 年から放火に次いで多い件数になっています。

平成 29 年中の火災件数は 691 件で、前年と比べて 105 件増加しています。

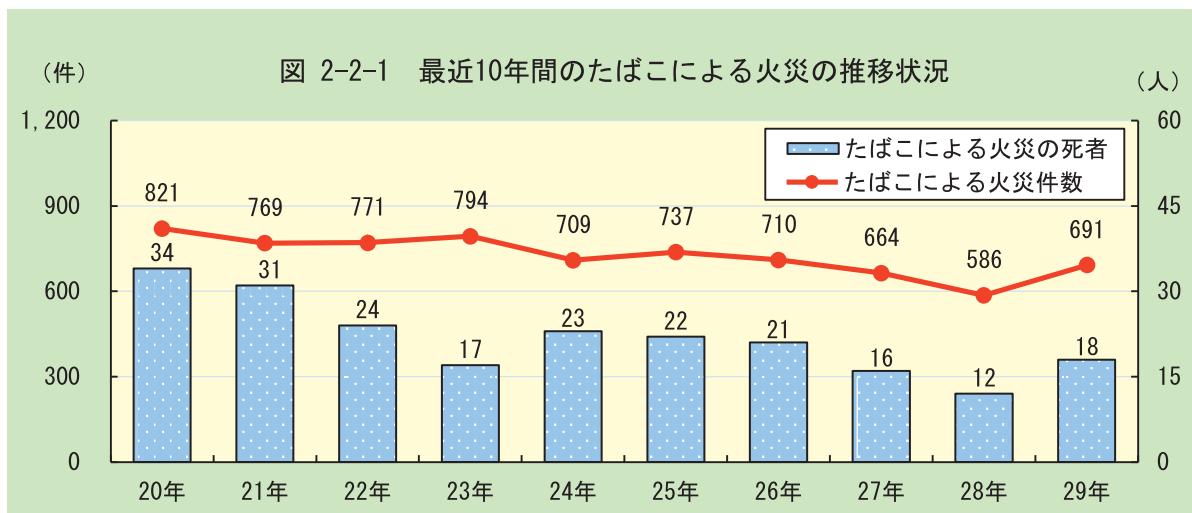
火災種別ごとにみると、前年と比べて車両火災が 7 件減少していますが、建物火災が 16 件、その他火災が 96 件増加しています。

損害状況をみると、前年と比べて負傷者は 4 人減少していますが、死者は 6 人増加しています（表 2-2-1 参照）。

最近 10 年間のたばこによる火災の推移をみると、平成 20 年以降火災件数及び死者数は減少傾向にありましたが、平成 29 年では増加しています（図 2-2-1 参照）。

表 2-2-1 年別火災状況（最近 10 年間）

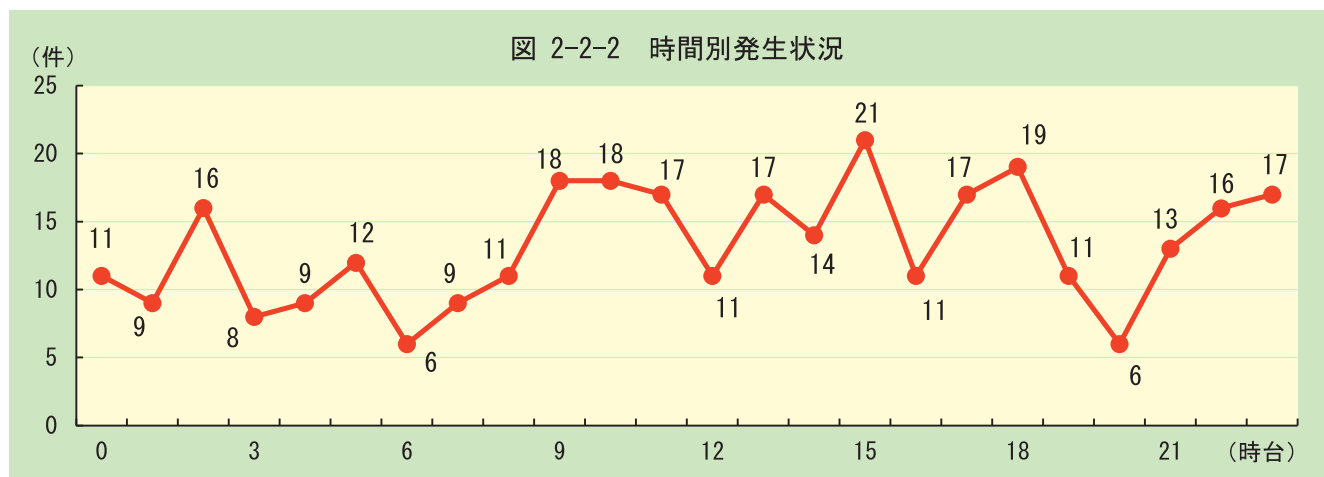
年 別	火災件数										損害状況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
20 年	821	539	13	28	186	312	-	25	-	257	4,754	1,795	1,026,759	34	165
21 年	769	506	24	22	151	309	-	16	1	246	4,492	1,194	802,407	31	148
22 年	771	484	10	25	137	312	-	18	-	269	3,096	1,274	626,414	24	127
23 年	794	461	7	31	120	303	-	14	-	319	3,611	1,466	745,868	17	124
24 年	709	462	5	27	123	307	-	15	-	232	2,992	1,324	585,057	23	104
25 年	737	432	3	18	128	283	-	11	-	294	2,664	1,651	513,123	22	86
26 年	710	415	7	16	111	281	-	20	-	275	2,105	1,158	485,068	21	98
27 年	664	372	6	17	100	249	-	13	-	279	1,913	838	356,287	16	65
28 年	586	354	4	9	88	253	-	17	-	215	1,698	566	328,463	12	92
29 年	691	370	4	11	99	256	-	10	-	311	1,622	1,037	462,962	18	88



(2) 建物からの発生状況

ア 時間別発生状況

たばこによる火災 691 件のうち、建物から出火した火災は 328 件 (47.5%) で、このうち出火時間が判明した 317 件の時間別発生状況をみたものが図 2-2-2 で、15 時台が 21 件で最も多く、次いで 18 時台に 19 件発生しています。



事例 たばこの火源が落下したことにより出火した火災 (6月)

構造・用途等	防火造 2/0 住宅	出火階・箇所	2階・屋根裏
--------	------------	--------	--------

焼損程度	建物部分焼1棟 1㎡等焼損
------	---------------

この火災は、住宅の2階屋根裏（ロフト）部分から出火した火災です。

出火原因は、居住者が吸っていたたばこが床面付近に落下したことに気付かずその場を離れてしまったため、床面の布きれに着火して出火したものです。

住宅と一緒に住む家族が煙のにおいで気づき、洗面器等で水を汲み初期消火を行い、その後自宅の固定電話から119番通報を行いました。

イ 主な建物用途の出火箇所

建物から出火した火災 328 件について、出火した用途と出火箇所をみたものが表 2-2-2 です。

表 2-2-2 出火した用途別の出火箇所

出火箇所	合 計	建 物 用 途										居 住 ・ 事 業 系 以 外
		居 住 関 係	事 業 系									
			小 計	飲 食 店	事 務 所	ホ テ ル ・ 簡 易 宿 泊 所 等	遊 技 場	停 車 場	工 場 等	倉 庫	そ の 他	
合 計	328	262	50	14	11	4	4	3	3	3	8	16
居 室	140	139	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ベ ラ ン ダ	71	68	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-
キ ッ チ ン 等	31	29	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
店 舗 ・ 客 室 関 係	11	-	11	6	-	3	2	-	-	-	-	-
玄 関 ・ ホ ー ル 等	10	6	3	1	-	-	-	2	-	-	-	1
作 業 関 係	9	-	9	4	1	-	1	-	1	-	2	-
廊 下 ・ 階 段 等	8	4	1	-	-	1	-	-	-	-	-	3
便 所 ・ 浴 室 等	8	5	3	1	-	-	1	-	-	1	-	-
事 務 室 等	8	-	8	-	3	-	-	-	1	1	3	-
廃 品 置 場 ・ ご み 捨 て 場	7	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
倉 庫 ・ 物 置 ・ 駐 車 場	6	2	2	-	-	-	-	-	1	-	1	2
建 物 の 外 周 部	5	1	2	1	-	-	-	-	-	-	1	2
休 憩 室	4	-	3	1	1	-	-	-	-	1	-	1
屋 上 等	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
機 械 室 関 係	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
各 種 貫 通 部	3	-	3	-	1	-	-	1	-	-	1	-

建物から出火した火災のうち、居住系用途（住宅・共同住宅等）で 262 件（79.9%）、事業系用途（共同住宅等を除く政令用途）で 50 件（15.2%）、居住・事業系以外の用途（複合用途の共用部分、工事中建物等）で 16 件（4.9%）発生しています。

居住系用途は、建物から出火した火災の 8 割近くを占めており、このうち出火箇所は、「居室」が 139 件（53.1%）で居住系用途の半数以上を占めています。

事業系用途では、「飲食店」が 14 件（28.0%）で最も多く、次いで「事務所」が 11 件（22.0%）、「ホテル・簡易宿泊所等」及び「遊技場」が各 4 件などとなっています。

出火箇所別にみると、「居室」が 140 件（42.7%）で最も多く、次いで「ベランダ」が 71 件（21.6%）、「キッチン等」が 31 件（9.5%）などとなっています。

ウ 経過別出火箇所

建物から出火した火災で経過別に出火箇所をみたものが表 2-2-3 です。

経過別では、「不適当な処に捨てる」が181件(55.2%)、「火源が落下する」が140件(42.7%)などとなっており、「不適当な処に捨てる」が半数以上を占めています。

「不適当な処に捨てる」は、吸い殻で一杯の灰皿等へ火種の残ったたばこを捨てたり、ごみ箱やごみ袋へ捨てたことによって火災となったものです。「不適当な処に捨てる」の出火箇所は「ベランダ」が52件(28.7%)で最も多く、次いで「居室」が40件(22.1%)、「キッチン等」が23件(12.7%)などとなっています。

「火源が落下する」は、喫煙中の火種が布団や紙類等の可燃物上に落下して火災となったものです。火災に至る布団は綿が使用されているものが多く、一旦布団の上にたばこが落ちると、炎を出さずに燻る無炎燃焼を継続し、その後、有炎現象となり出火します。

「火源が落下する」のうち、出火箇所は「居室」が95件(67.9%)で最も多く、次いで「ベランダ」が18件(12.9%)、「キッチン等」が8件(5.7%)などとなっています。

表 2-2-3 経過別出火箇所の状況

経過	合計	出火箇所															
		居室	ベランダ	キッチン等	店舗・客室関係	玄関・ホール等	作業関係	事務所	便所・浴室等	廊下・階段等	廃品置場・ごみ捨て場	倉庫・物置・駐車場	建物の外周部	休憩室	屋上等	機械室関係	各種貫通部
合計	328	140	71	31	11	10	9	8	8	8	7	6	5	4	4	3	3
不適当な処に捨てる	181	40	52	23	6	9	8	4	4	7	6	6	5	3	2	3	3
火源が落下する	140	95	18	8	4	1	1	4	4	1	1	-	-	1	2	-	-
火源が接触する	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	5	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

エ 経過別の喫煙時の状況

建物から出火した火災のうち、経過別の喫煙時の状況をみたものが表 2-2-4 です。

喫煙時の状況が判明した火災は269件で、喫煙時の状況をみると、「休憩中」が58件(21.6%)で最も多く、次いで「就寝時」が56件(20.8%)、「外出時」が48件(17.8%)などとなっています。

「休憩中」の58件について、出火に至る経過をみると、灰皿の吸い殻をごみ入れに捨てたことにより、ごみくずなどに着火して火災になるなどの「不適当な処に捨てる」が42件(72.4%)で7割以上を占めています。

表 2-2-4 経過別の喫煙時の状況

経過	合計	喫煙時の状況															
		休憩中	就寝時	外出時	飲酒中	出勤時	作業中・執務中	起床時	帰宅準備中	観覧中・鑑賞中	着替中	家事従事中(調理・炊事を除く)	調理中(炊事中)	飲食中	会議中・談話中	遊戯中	その他
合計	269	58	56	48	16	14	12	10	4	3	2	2	2	1	1	1	39
不適当な処に捨てる	149	42	14	29	10	11	7	5	3	1	2	2	-	-	-	1	22
火源が落下する	117	16	40	18	6	3	5	5	1	2	-	2	1	1	-	-	17
火源が接触する	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

オ 出火に至った時間

建物から出火した火災のうち、出火に至った時間が判明した火災は 230 件で、時間経過別に着火物をみたものが表 2-2-5 です。

表 2-2-5 出火に至った時間経過と着火物

出火に至るまでの時間	合計	着火物									
		ごみくず	繊維類	紙・紙製品	くず類	合成樹脂・合成樹脂製品	床材	家具類	電気製品	木質物	不明
合計	230	105	65	20	12	9	6	5	2	1	5
1 時間未満	119	62	22	13	7	6	2	3	1	1	2
1 時間以上 2 時間未満	54	23	16	4	4	3	2	-	-	-	2
2 時間以上 3 時間未満	25	10	14	-	-	-	-	-	1	-	-
3 時間以上 4 時間未満	15	5	8	-	-	-	-	2	-	-	-
4 時間以上 5 時間未満	6	2	2	1	-	-	1	-	-	-	-
5 時間以上 6 時間未満	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
6 時間以上	8	2	2	2	-	-	1	-	-	-	1

時間的には、1時間未満のものが119件（51.7%）と最も多く発生しており、半数を超えています。

着火物では、「ごみくず」が最も多く105件（45.7%）で、次いで布団や繊維製品の「繊維類」の65件（28.3%）、「紙・紙製品」の20件（8.7%）などとなっています。

カ 行為者の状況

(7) 行為者の男女別・年齢

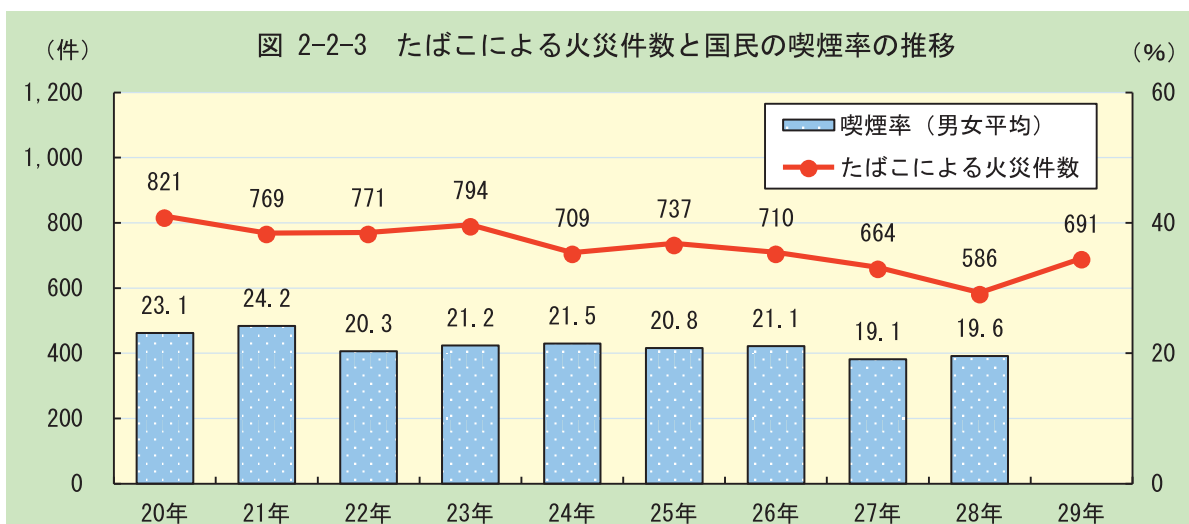
たばこによる火災件数と国民の喫煙率の推移をみたものが図2-2-3です。

最近10年間の男女喫煙率の平均をみると、平成20年以降、増減を繰り返しながらも減少傾向にありました。

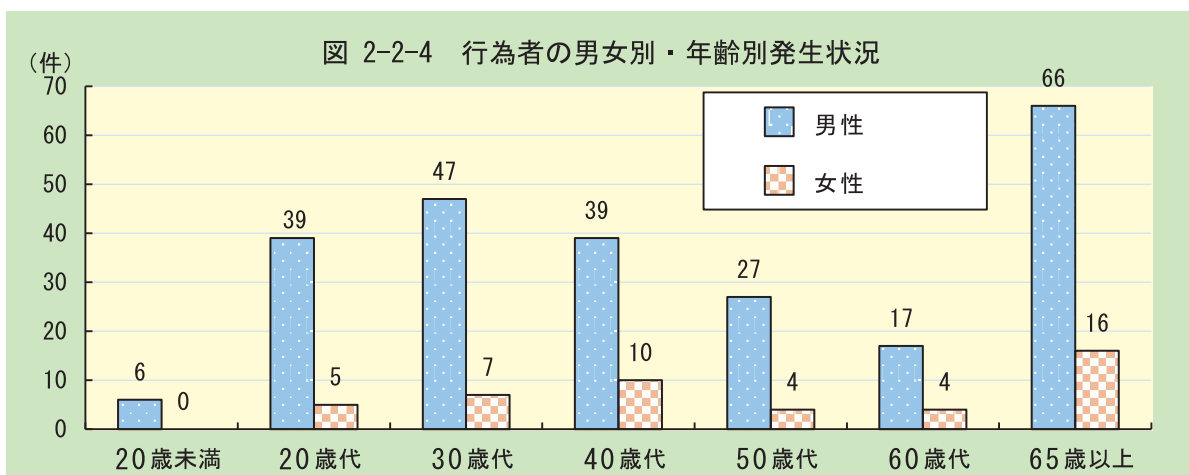
しかし、平成29年にはたばこによる火災件数が前年よりも105件増加しています。

行為者の男女別及び年齢が判明している火災の状況をみたものが図2-2-4です。建物から出火した火災328件のうち、行為者の男女別及び年齢が判明した火災は287件で、男性が241件（84.0%）、女性が46件（16.0%）となっています。

年齢別では65歳以上が82件（28.6%）で最も多く、次いで、30歳代が54件（18.8%）、40歳代が49件（17.1%）などとなっています。



注 喫煙率は厚生労働省国民健康調査より引用（平成29年は未公表）



(1) 寝たばこによる状況

ここでいう「寝たばこ」とは、「就寝前若しくは起床時などに関連した状態で、寝具類の中又は上で喫煙し、たばこにより寝具類に着火して出火した火災」をいいます。平成29年中の寝たばこによる火災は34件で前年と比べて16件増加しており、1人の死者と17人の負傷者が発生しています。

寝たばこによる火災34件について、年齢区分別行為時の状態をみたものが表2-2-6です。行為者を年齢区分別にみると、65歳以上が9件(26.5%)で最も多く発生しています。死者は65歳以上で1人、負傷者は40歳代で6人、65歳以上で5人、50歳代で4人、30歳代で2人発生しています。

表 2-2-6 寝たばこの年齢区分別行為時の状態

年齢区分別	合計	行 為 時 の 状 態					死 者	負 傷 者
		正 常	飲 酒	薬物服用	そ の 他	不 明		
合 計	34	12	12	5	2	3	1	17
20歳代	2	-	1	-	1	-	-	-
30歳代	5	1	2	1	1	-	-	2
40歳代	8	2	2	3	-	1	-	6
50歳代	6	-	4	-	-	2	-	4
60歳代	4	2	2	-	-	-	-	-
65歳以上	9	7	1	1	-	-	1	5

(3) 建物以外の発生状況

建物以外から出火した火災で、出火箇所別に着火物をみたものが表2-2-7です。

たばこによる火災691件のうち、建物以外から出火した火災は363件(52.5%)で、前年と比べて112件増加しています。このうち出火箇所を大きく分けると、「道路・公園等」が174件(47.9%)、次いで「固有地(物)」が160件(44.1%)、「建物の部分」が13件(3.6%)などとなっています。

着火物については、「ごみくず」が138件(38.0%)で4割近くを占めており、次いで、「枯草・落葉・立木・芝草」が97件(26.7%)、「木質物」が38件(10.5%)などとなっています。

出火箇所の中で件数が多い「道路(側溝を含む)」と「敷地内」を合わせた255件のうち、着火物が「ごみくず」の火災は106件(41.6%)で4割以上を占めており、その多くがたばこの投げ捨てによって発生しています。

たばこ火災は、個人の意識やちょっとした工夫により、未然に防ぐことができる火災です。吸い殻を水に浸す、ポイ捨てをしない等のちょっとした配慮は、自分だけではなく、周りの環境を変える力も持っています。適切なマナーは、火災予防にもつながります。

3 火遊び

○ 火遊びによる火災件数が前年よりも16件増加しました。

抽出条件：経過分類コード 「931 火遊び」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「火遊び」とは、行為者が14歳未満の者で、遊びを目的として出火させた火災をいいます。

なお、玩具用花火で遊戯中に火出したものは、含んでいません。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表2-3-1です。

平成29年中の火遊びによる火災は49件で、前年と比べて16件増加していますが、最近10年間で2番目に少ない件数となっています。死者はなく、負傷者は3人発生しています。

表2-3-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災件数									焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
	合 計	建物					車 両	林 野	そ の 他					
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
20年	168	62	-	2	15	45	3	-	103	225	324	69,380	2	30
21年	153	47	2	2	7	36	3	-	103	254	13	45,860	-	19
22年	115	41	-	-	6	35	3	-	71	93	73	24,068	2	17
23年	109	42	-	2	10	30	1	-	66	246	82	51,075	-	22
24年	98	34	1	1	3	29	1	-	63	152	12	7,132	2	12
25年	74	25	-	2	4	19	-	-	49	205	89	55,238	-	10
26年	76	20	-	-	2	18	3	-	53	34	9	7,413	-	1
27年	72	26	-	2	5	19	-	2	44	120	18	30,700	-	4
28年	33	14	-	-	2	12	-	-	19	20	12	3,048	-	1
29年	49	19	-	-	5	14	-	-	30	15	5	2,707	-	3

イ 月別発生状況

月別の火災状況をみると、6月が10件（20.4%）で最も多く、次いで1月と3月が各6件（12.2%）などとなっています。

ウ 時間別の発生状況

時間別に発生状況をみると、16時台が10件（20.4%）で最も多く、次いで14時台と18時台が各6件（12.2%）などとなっています。

(2) 出火箇所

発火源別に出火箇所をみたものが表 2-3-2 です。

出火箇所をみると、建物関係の箇所から出火した火災 17 件では、「居室」から出火したものが 4 件（23.5%）で最も多く、布団や襖等にライターなどを用いて火遊びをしています。

建物関係以外の箇所から出火した火災 32 件では、「公園」及び「敷地内」が各 12 件（37.5%）となっており、立木やごみくずなどが着火物となっています。

発火源では、「ライター」が 29 件（59.2%）と最も多く、次いで「マッチ」が 9 件（18.4%）などとなっています。

表 2-3-2 発火源別出火箇所

発火源	合計	出火箇所								
		建物関係（主として建物の箇所）					建物関係以外（主として建物以外の箇所）			
		居室	一般店舗	ご廃み品捨置場・	便所	その他	公園	敷地内	河川敷	その他
合計	49	4	3	3	2	5	12	12	4	4
ライター	29	3	3	2	1	3	8	7	-	2
マッチ	9	-	-	-	-	-	2	4	1	2
ガステーブル	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ガスレンジ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
クリプトン電球	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
火のついた紙	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
不明	7	1	-	1	1	-	1	-	3	-

(3) 子供に対するライターの安全対策

消費生活用製品安全法施行令の一部改正により、平成 23 年 9 月 27 日以降、使い捨てライター等は、幼児の誤使用を防ぐチャイルドレジスタンス機構（CR）を備えないライターや幼児が興味を引くようなおもちゃ型のライター（ノベルティライター）は販売できなくなりました。技術基準に適合しているライターについては P S C マークの表示が義務付けられています。

ア ライターの火遊びによる火災の発生状況

最近 5 年間のライターの火遊びによる火災発生状況をみたものが表 2-3-3 です。

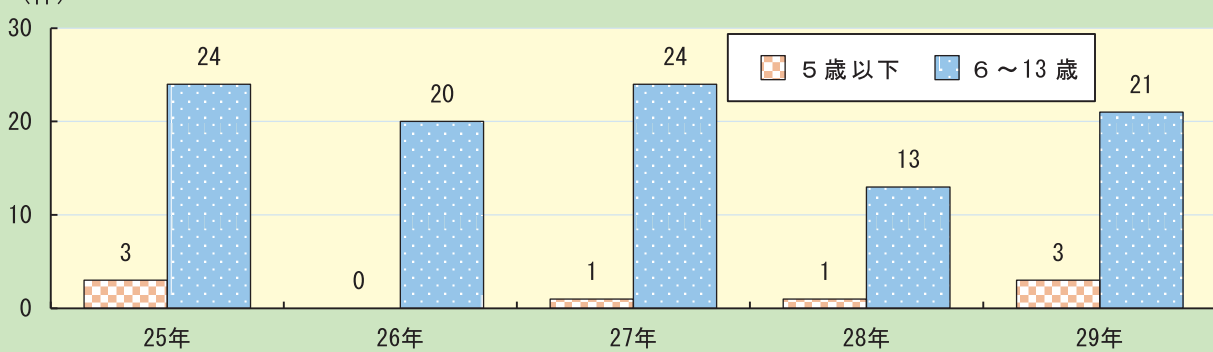
平成 29 年中のライターの火遊びによる火災は 29 件で、前年と比べて 15 件増加しました。ライターの火遊びに占める割合は 59.2% となっており、最近 5 年間では最も高い割合となっています。

ライターの火遊びによる火災件数の推移を行為者の年齢別（年齢不明を除く。）にみたものが図 2-3-1 です。6～13 歳の行為者による火災は 21 件で、前年と比べて 8 件増加しました。

表 2-3-3 ライターの火遊びによる火災状況

年別	合計	火遊びに占める割合 (%)	火災の件数								損害状況				
			建物					車両	林野	その他	焼損床面積 (m ²)	焼損表面積 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者
			小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
25年	34	45.9	16	-	2	3	11	-	-	18	205	88	55,139	-	8
26年	23	30.3	6	-	-	-	6	-	-	17	-	-	79	-	-
27年	32	44.4	10	-	2	3	5	-	2	20	95	17	25,364	-	1
28年	14	42.4	7	-	-	2	5	-	-	7	20	12	3,025	-	1
29年	29	59.2	13	-	-	3	10	-	-	16	-	3	120	-	1

図 2-3-1 ライターの火遊びによる火災の行為者年齢別件数の推移 (年齢不明を除く。)



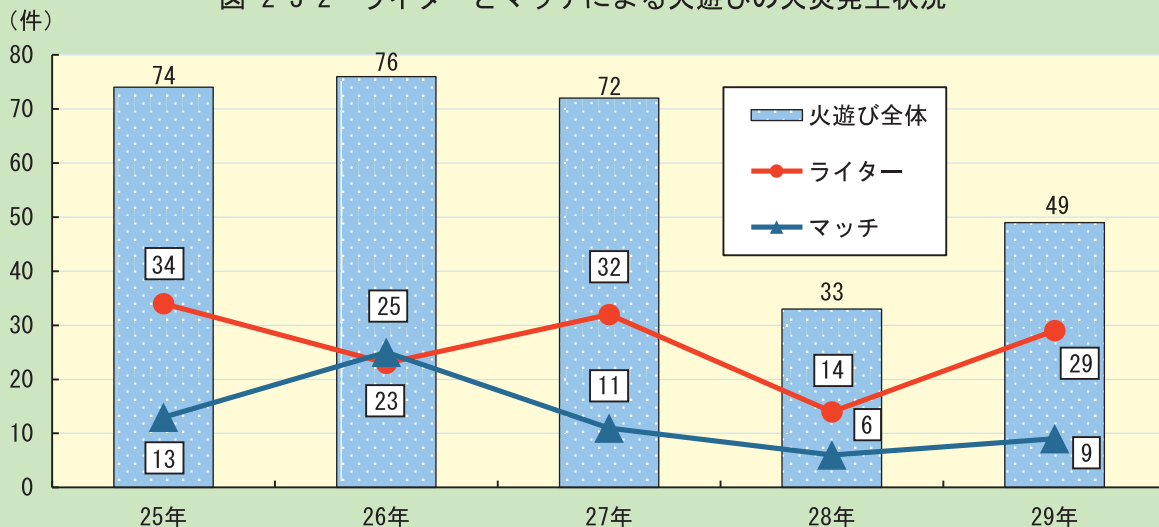
イ ライターとマッチによる火遊びの比較

平成 29 年中のライターとマッチによる火遊びの火災発生状況をみたものが図 2-3-2 です。

平成 29 年中のライターの火遊びによる火災は 29 件で、前年に比べて 15 件増加しました。マッチの火遊びによる火災は 9 件で、前年に比べて 3 件増加しました。

増減はあるものの、最近 5 年間でみるとライターとマッチいずれも減少傾向にあります。

図 2-3-2 ライターとマッチによる火遊びの火災発生状況



4 ライター

- ライターによる火災件数が最近 10 年間で最も少ない件数となりました。
- ライターによる建物火災の割合は前年と比べて 7.5 ポイント増加しました。

抽出条件：①発火源分類コード 「42301 ライター」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ライター」による火災とは、発火源が「ライター」で、放火及び火遊びによる火災を除いたものをいいます。

ア 年別火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 2-4-1 です。

平成 29 年中のライターによる火災は 28 件で、最近 10 年間では最も少ない件数となっています。

火災種別ごとにみると、建物火災は 21 件（75.0%）で、前年と比べて 6 件減少していますが、ライターによる火災のうち建物火災が占める割合は、前年と比較すると 7.5 ポイント増加しています。車両火災は 5 件（17.9%）で、前年よりも 6 件減少しています。その他の火災は 2 件で、前年と同数となっています。

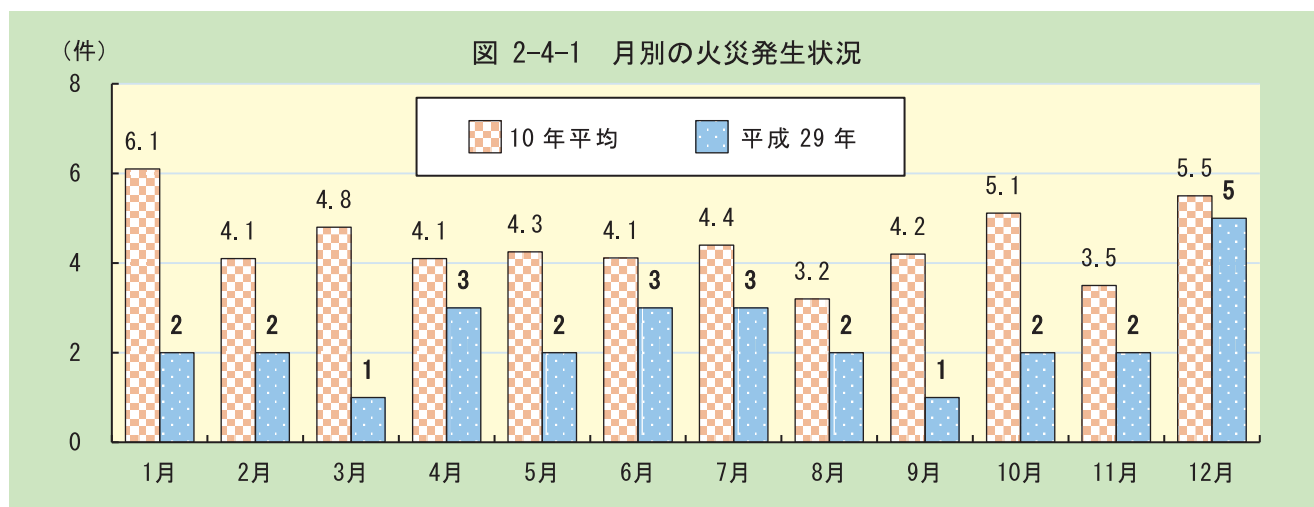
表 2-4-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 件 数									損 害 状 況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
20 年	68	42	2	-	8	32	-	22	4	322	111	60,133	2	21
21 年	74	45	-	1	9	35	-	24	5	239	95	36,584	1	20
22 年	74	36	1	1	2	32	-	34	4	239	103	54,254	1	22
23 年	65	40	1	2	6	31	-	21	4	311	128	114,122	-	38
24 年	41	29	-	-	4	25	-	10	2	17	14	3,156	1	21
25 年	47	27	-	3	1	23	-	16	4	178	87	32,234	1	20
26 年	46	32	1	1	4	26	1	9	4	673	68	178,153	2	34
27 年	33	18	-	-	2	16	-	11	4	77	20	23,320	1	11
28 年	40	27	-	1	2	24	-	11	2	60	7	19,017	-	32
29 年	28	21	-	1	2	18	-	5	2	34	21	5,968	-	15

イ 月別火災状況

ライターによる火災を月別にみたものが図 2-4-1 です。平成 29 年中は 12 月が最も多く、5 件（17.9%）の発生となっています。最近 10 年間の月別平均件数では、1 月が 6.1 件と最

も多く、次いで12月が5.5件となっています。



(2) 経過別出火箇所区分

平成29年中のライターによる火災の状況を経過別出火箇所区分で見たものが表2-4-2です。

経過別では、「引火する」が10件(35.7%)で4割近くを占めています。次いで「誤ってスイッチが入る」が5件(17.9%)などとなっています。

「引火する」の出火箇所区分をみると、建物から出火した火災が9件(90.0%)、建物以外から出火した火災が1件(10.0%)発生しています。室内でオイルライターにオイルを補充しようとした際にオイルをこぼしたことに気がつかず、ライターを点火し、こぼれたオイルのペーパーに引火し出火したものなどがあります。

表 2-4-2 経過別出火箇所区分の状況

出火箇所区分	合計	経過別						
		引火する	が誤ってスイッチに入る	火源が接触する	接炎する	本来用途以外のものに	火源が落下する	
合計	28	10	5	4	4	3	2	
建物	小計	21	9	2	3	2	3	2
	建物(自宅)	14	4	2	3	2	1	2
	建物(事業用)	4	4	-	-	-	-	-
	建物(自宅以外)	2	1	-	-	-	1	-
	建物(その他)	1	-	-	-	-	1	-
建物以外	小計	7	1	3	1	2	-	-
	車両からの出火	5	1	3	1	-	-	-
	屋外で出火	2	-	-	-	2	-	-

5 花 火

○ 花火により発生した火災で損害額が前年と比べて増加しました。

抽出条件：①発火源分類コード 「71201 煙火」、「71202 花火」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげる「花火」とは、発火源が煙火（以下「専門花火」という。）及び玩具煙火（以下「おもちゃ花火」という。）の両方の火災をいいます。

夏の風物詩として日本人に親しまれる花火ですが、使用方法を誤ると火災や火傷の原因になることから、子供に対して安全な取扱いや遊び方を指導する必要があります。

ア 年別火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 2-5-1 です。

平成 29 年中の花火による火災は 4 件で、前年と比べて 4 件減少しており、最近 10 年間で最も少なくなっています。

なお、平成 29 年中の花火による火災は、4 件全てがおもちゃ花火による火災で、専門花火による火災はありませんでした。

また、最近 10 年間に於いて花火による火災の死者は発生していません。

火災種別ごとにみると、車両火災が 1 件（25.0%）、その他の火災が 3 件（75.0%）となっています。車両火災は、共同住宅のベランダで花火をしていた際に火種が屋外の駐輪スペースに落下し、駐輪されていたオートバイのカバーに着火しオートバイへ延焼したものです。

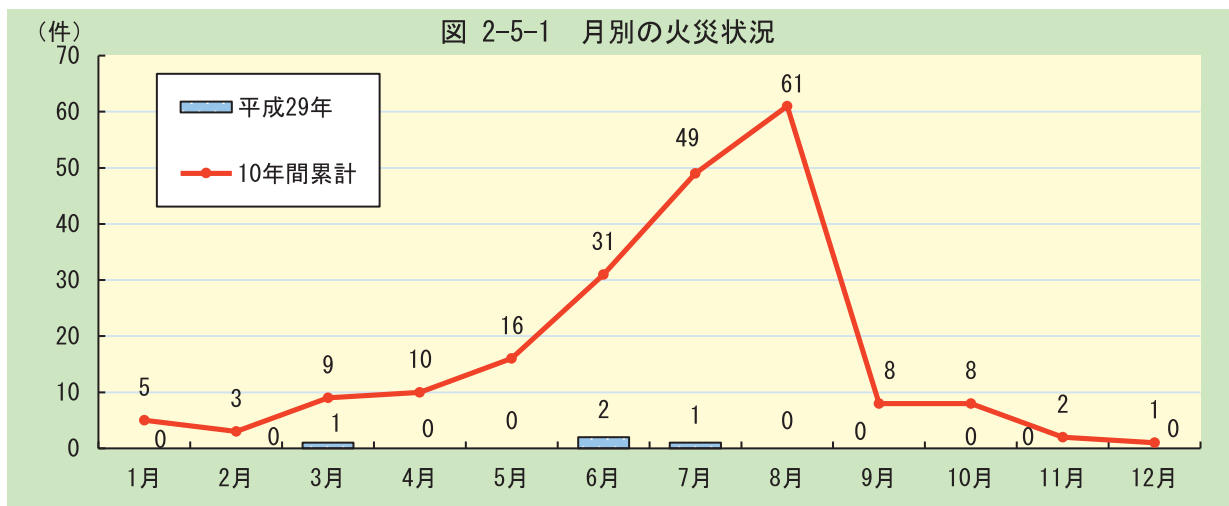
表 2-5-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 件 数										損 害 状 況				
	合 計	建 物					車 両	船 舶	林 野	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
20 年	34	-	-	-	-	-	1	-	-	33	-	-	9	-	-
21 年	21(1)	3	-	-	-	3	-	-	-	18(1)	-	-	173	-	2
22 年	26	4	-	-	-	4	-	-	-	22	-	-	71	-	1
23 年	25	1	-	-	-	1	-	-	-	24	-	-	69	-	3
24 年	26(1)	2	-	-	-	2	-	-	1	23(1)	-	-	80	-	-
25 年	21(2)	-	-	-	-	-	-	1	-	20(2)	-	-	3	-	4
26 年	25(1)	2	-	-	-	2	-	-	-	23(1)	-	-	48	-	4
27 年	13	5	-	-	4	1	-	-	-	8	-	39	562	-	1
28 年	8	2	-	-	-	2	-	-	-	6	-	-	2	-	-
29 年	4	-	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	377	-	1

注 () 内の数値は専門花火の件数を内数で計上しています。

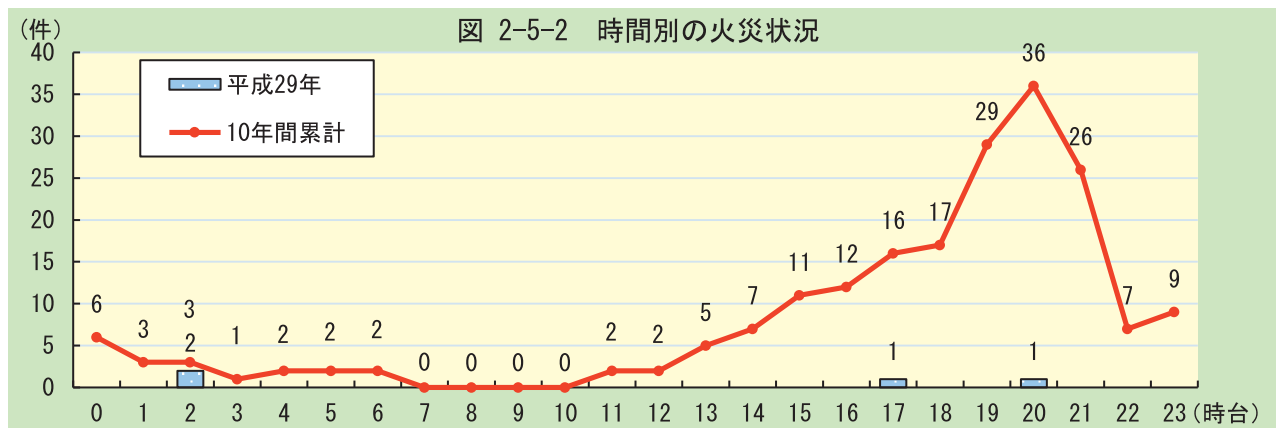
イ 月別発生状況

最近 10 年間の花火による火災 203 件の月別発生状況をみたものが図 2-5-1 です。花火による火災は例年 6 月から 8 月にかけて集中する傾向にあり、最近 10 年間で 141 件（69.5%）発生し、平成 29 年中もこの期間で 3 件（75.0%）の発生となっています。



ウ 時間別発生状況

最近 10 年間の花火による火災で出火時間が不明の 5 件を除く 198 件の時間別発生状況をみたものが図 2-5-2 です。19 時台から 21 時台で 91 件（46.0%）と他の時間帯に比べ多く発生しています。



(2) 行為者と火災状況

花火は火の粉が飛び散ったり、花火自体が飛ばすため、花火を行う場所と火災の発生する場所が異なることがあり、行為者を特定することが困難です。

最近 10 年間の花火による火災で行為者が判明したのは 85 件で、平成 29 年中は 2 件でした。

ここでは、花火による火災で行為者が判明した最近 10 年間の 85 件についてみていきます。

表 2-5-2 行為者の年齢区分と出火箇所（最近 10 年間累計）

年齢区分	出火箇所											
	合計	建物関係以外（主として建物以外の箇所）							建物関係（主として建物の箇所）			
		河川敷	敷地内	公園	道路	空地	屋外駐車場	その他	ベランダ	台所	壁内	教室
合計	85	33	18	13	4	4	3	5	2	1	1	1
13 歳以下	24	4	8	4	2	1	3	-	1	1	-	-
14～19 歳	48	26	6	8	1	3	-	4	-	-	-	-
20 歳以上	13	3	4	1	1	-	-	1	1	-	1	1

花火による火災の行為者を年齢区分と出火箇所別にみたものが表 2-5-2 です。

出火箇所で見ると、85 件のうち、80 件が建物関係以外の箇所から出火し、5 件が建物関係の箇所から出火しています。

13 歳以下の行為者をみると、火災は 24 件（28.2%）発生しています。出火時間では、20 時台が 8 件（33.3%）で最も多く発生しています。出火箇所をみると、敷地内が 8 件（33.3%）で最も多くなっています。

14 歳から 19 歳以下の行為者をみると、火災は 48 件（56.5%）発生しています。出火時間では、21 時台が 10 件（20.8%）で最も多くなっています。出火箇所をみると、河川敷が 26 件（54.2%）で最も多く、次いで公園が 8 件（16.7%）などとなっています。

さらに 20 歳以上の行為者をみると、火災は 13 件（15.3%）発生し、時間別では、20 時台が 3 件（23.1%）で最も多く、次いで 21 時台で 2 件（15.4%）となっています。出火箇所をみると、敷地内が 4 件（30.8%）で最も多くなっています。

19 歳以下の未成年の合計は 72 件となり、行為者の 8 割以上（84.7%）を占めています。

6 電気設備機器

- 全火災件数に占める電気設備機器火災の割合が、最近10年で最も高い27.4%。
- 政令用途対象物の火災の割合が、増加傾向で推移しています。

抽出条件：①発火源分類コード 大分類コード「1 電気を使用する道具・装置」
 ②経過分類コード「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード「0 非該当」

(1) 火災状況

平成29年中の全火災件数（治外法権火災1件を除く、以下同じ。）は4,204件で、前年と比べて224件増加しました。電気設備機器火災件数は1,152件で、前年と比べて100件増加し、全火災件数に対する割合は27.4%で、年々増加傾向で推移しています。

平成29年中の電気設備機器火災件数は、最近10年間で最も高い件数となっています。

表 2-6-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	全火災件数	電気設備機器火災件数	全火災に対する割合（%）	火災件数								損害状況					
				建物				航空	車両	船舶	その他	焼損床面積（㎡）	焼損表面积（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者	
				小計	全焼	半焼	部分焼										
20年	5,762	1,074	18.6	965	37	36	172	720	-	1	-	108	10,900	4,280	2,299,446	22	225
21年	5,598	1,004	17.9	896	26	28	138	704	-	-	1	107	5,431	2,107	1,410,553	21	186
22年	5,086	997	19.6	892	19	28	157	688	-	-	-	105	6,465	3,005	1,265,144	23	194
23年	5,340	1,051	19.7	933	18	26	139	750	-	-	1	117	4,774	2,345	931,142	12	172
24年	5,088	1,109	21.8	992	19	35	119	819	1	-	-	116	5,506	1,589	1,353,856	18	159
25年	5,190	1,111	21.4	984	20	28	129	807	-	-	-	127	7,221	3,570	2,052,525	21	155
26年	4,804	1,020	21.2	901	27	23	119	732	-	1	2	116	6,502	1,971	1,354,817	23	189
27年	4,430	1,047	23.6	909	21	21	104	763	-	-	2	136	5,685	1,913	970,983	18	178
28年	3,980	1,052	26.4	924	11	18	108	787	-	1	-	127	3,526	1,856	931,198	11	192
29年	4,204	1,152	27.4	1,019	22	17	118	862	-	-	-	133	4,447	1,819	1,208,237	13	171

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

なお、車両本体から出火した電気火災は、「第6章 13 車両」において分析していますので参照してください。

(2) 主な出火原因

電気設備機器を、発火源別に電熱器、電気機器、電気装置、配線等及び配線器具等に分類したものが表 2-6-2 です。

ア 電熱器

電熱器関係の火災は 232 件（20.1%）で、前年と比べて 47 件増加しています。

電熱器の中で火災件数が最も多いのは、電気ストーブが 74 件（31.9%）で、次いで電気クッキングヒータ * が 24 件（10.3%）と電気こんろが 20 件（8.6%）などとなっており、この 3 種類の機器で電熱器の 50.9% と半数を超えています。

電気ストーブの火災は 74 件で、前年と比べて 5 件増加しており、電熱器の中で火災発生件数が一番多い状況です。他の暖房器具に比べ安価で炎が出ないことや、給油の手間がかからないとの理由から、手軽に活用している方が増えています。賃貸の共同住宅などでは、灯油やガスを使用する暖房器具の使用を禁止している物件もあり、エアコンや電気ストーブの使用を促す不動産会社もあるようです。

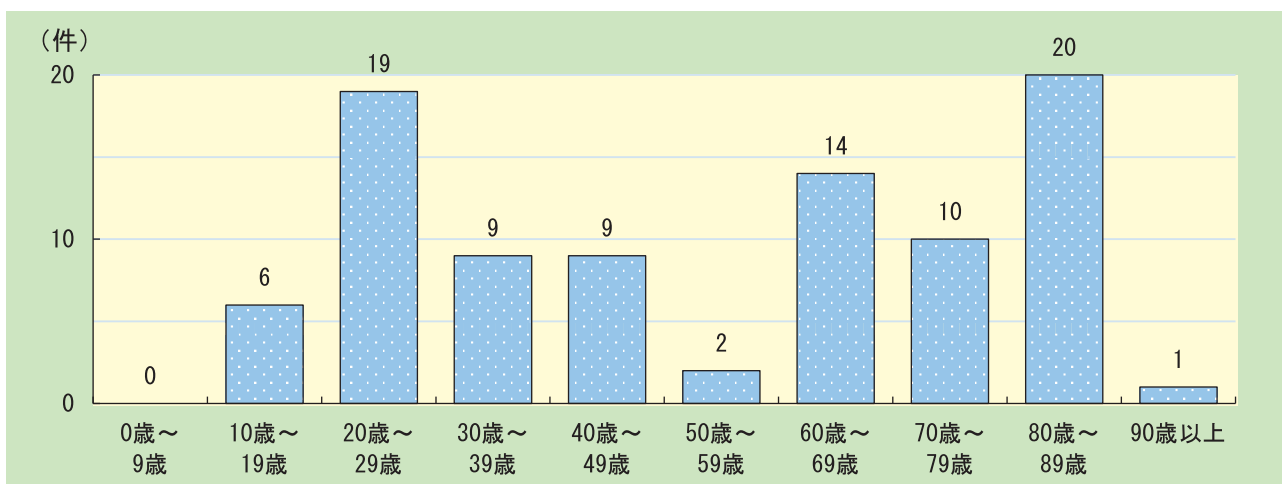
なお、電気ストーブと外見上見分けがつきにくい形状のカーボンヒータやハロゲンヒータは、使用用途は同じですが、火災調査上ではそれぞれ決められた発火源ごとに統計・分析を行っています。

経過をみると「可燃物が接触する」が 48 件で、このうち寝返りなどで布団類が接触して出火する火災が 27 件で 56.3% を占めています。その他の可燃物は、衣類や紙類などとなっています。

平成 29 年の「電気ストーブからの火災」を行為者の年齢別にみたものが図 2-6-1 です。

なお、ここでいう「電気ストーブからの火災」は、電気ストーブ、カーボンヒータ *、ハロゲンヒータ、温風機を含めたものをいいます。

図 2-6-1 「電気ストーブからの火災」の行為者年齢別発生状況（平成 29 年）



注 行為者年齢不明10人を除く。

行為者を年齢別にみると、80歳代が最も多く20人（22.2%）、次いで20歳代が19人（21.1%）、60歳代が14人（15.6%）などとなっています。電気ストーブ、カーボンヒータ*、ハロゲンヒータ、温風機は、化石燃料を使用する機器と比べると安価であり、年齢を問わず手軽に使用しているようです。

また、これらは炎が出ないため、火災になる危険性に対する意識が低く、使用したまま就寝して寝返りなどで布団が接触し火災に至る事案が多く発生しています。

電気クッキングヒータ*の火災は、24件で前年と比べて7件増加しています。経過をみると、「誤ってスイッチが入る（入れる）」が11件（45.8%）、次いで「放置する・忘れる」が6件（25.0%）、「考え違いにより使用を誤る」が4件（16.7%）、「構造が不完全である」が2件（8.3%）、「過熱する」が1件（4.2%）などとなっています。「誤ってスイッチが入る（入れる）」は、誤って身体や持っていたバッグなどがスイッチに触れて電源が入ったり、他のスイッチと間違えて電源を入れたものなどです。

電気トースタの火災は13件で、前年と比べて4件減少しています。経過で最も多いのは、「過熱する」で8件（61.5%）、次いで「考え違いにより使用を誤る」が3件（23.1%）などとなっています。「考え違いにより使用を誤る」は、電気トースタ調理不可の食材を調理したものや購入した食材をトレーごと加熱したものなどがあります。

イ 電気機器

電気機器関係の火災件数は、398件（34.5%）で前年と比べて6件減少しています。

電気機器の中で火災件数が最も多いのは、電子レンジの45件（11.3%）で、次いで蛍光灯が33件（8.3%）、充電式電池が24件（6.0%）などとなっています。

電子レンジの火災は、45件で前年と比べて10件増加しています。経過で最も多いのは、「過熱する」が21件（46.7%）、次いで「考え違いにより使用を誤る」が18件（40.0%）となっています。

蛍光灯の火災は、33件で前年と比べて5件減少しています。経過をみると「絶縁劣化により発熱する」が18件（54.5%）、次いで「金属の接触部が過熱する」が7件（21.2%）などとなっており、安定器の長期間の使用による経年劣化によるものなどがあります。

充電式電池の火災は、24件で前年と比べて20件減少しています。経過で最も多いのは「電線が短絡する」が18件（75.0%）となっています。

事例1 LEDシーリングライトの基板から出火した火災（10月）			
構造・用途等	防火造 2/0 住宅	出火階・箇所	1階・居室
焼損程度	建物ぼや1棟 LEDシーリングライト焼損		
この火災は、住宅の1階居室から出火したものです。 出火原因は、LEDシーリングライトの基板上のフィルムコンデンサが内部短絡し出火したものです。 火元者（50歳代男性）の子供達が、1階居室でテレビを見ているとバンツという音と異臭がして天井のLEDシーリングライトから煙が出ているのを確認しました。父親がライトを天井から取り外すと内部の基板部分が焼損しているのを発見しました。			

ウ 電気装置

電気装置関係の火災件数は、59件（5.1%）で前年と比べて11件減少しています。

電気装置の中で火災件数が最も多いのは、分電盤が11件（18.6%）で、次いでコンデンサ（低圧）*が9件（15.3%）、トランス*が8件（13.6%）などとなっています。

分電盤の火災は、11件で前年と比べて1件増加しています。その経過をみると、「金属の接触部が過熱する」及び「電線が短絡する」が各5件（45.5%）となっています。

コンデンサ（低圧）の火災は9件で前年と比べて4件減少しています。その経過をみると、9件中8件（88.9%）が「絶縁劣化により発熱する」となっています。

コンデンサ（低圧）から出火する火災は例年、梅雨の季節から暑さが続く9月にかけて多発し、出火原因のほとんどが長年使用による絶縁劣化により発熱、出火しています。この季節は気温が高いことからコンデンサ本体の温度もさらに上昇し、絶縁劣化が進み火災の発生が多くなっています。

エ 配線等・配線器具等

配線等・配線器具等の火災は、合わせて454件（39.4%）で前年と比べて72件増加しています。

経過をみると、「金属の接触部が過熱する」が141件（31.1%、前年比14件増加）、「電線が短絡する」が135件（29.7%、同39件増加）、「トラッキング」が59件（13.0%、同3件増加）などとなっています。

発火源別にみると、配線等の火災は237件発生し、このうちコードが73件（30.8%）で、経過の内訳は、「電線が短絡する」が52件（71.2%）、「半断線により発熱する」が13件（17.8%）などとなっており、次いで屋内線が40件（16.9%）で、経過の内訳は「電線が短絡する」が14件（35.0%）、「地絡する」が10件（25.0%）などとなっています。

配線器具等の火災は217件発生し、このうち差込みプラグが64件（29.5%）で、経過の内訳は「トラッキング」が26件（40.6%）などとなっており、次いでコンセントが59件（27.2%）で、経過の内訳は「金属の接触部が過熱する」が49件（83.1%）などとなっています。テーブルタップは27件（12.4%）発生し、経過の内訳は「トラッキング」が9件（33.3%）、「金属の接触部が過熱する」及び「電線が短絡する」が各6件（22.2%）などとなっています。

事例2 壁付コンセントに金属ピンを差込んだため出火した火災（5月）

構造・用途等	防火造 2/0 住宅	出火階・箇所	2階・廊下
--------	------------	--------	-------

焼損程度	建物ぼや1棟 壁付コンセント1、床若干焼損	負傷者	1人
------	-----------------------	-----	----

この火災は、住宅の2階廊下から出火したものです。

出火原因は、火元者の息子（7歳）が、2階廊下の壁付コンセントに金属ピンを差込んだことにより短絡し出火したものです。

火元者の妻が2階居室を掃除していると、廊下で遊んでいた息子のところで火花が飛んだのを発見しました。息子に近寄ると、壁付コンセントが焼損し、周りに金属のピンが落ちていて、手を火傷していたので119番通報をしました。

オ 電気機器の部位別の火災状況

電気機器関係の火災 398 件の主な出火部位をみたものが表 2-6-3 です。以下、それぞれについてみていきます。

表 2-6-3 主な電気機器の出火部位

発火源	合計	充電部	電源コード	庫内	器具内配線	基板	ヒータ	安定器	差込みプラグ	コンデンサ部	動力用モータ	その他の電気器具部分	その他・不明
合計	398	44	40	38	36	33	32	28	19	14	7	65	42
電子レンジ	45	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	1	6
蛍光灯	33	-	-	-	2	-	-	22	-	4	-	5	-
充電式電池	24	19	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	2
冷暖房機	19	-	3	-	2	4	-	-	-	3	2	2	3
LED	17	-	4	-	5	3	-	-	1	1	-	2	1
カーボンヒータ*	16	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	1	1
コンピュータ(本体)	15	7	2	-	2	1	-	-	2	-	-	1	-
電磁調理器*	14	-	1	-	-	1	10	-	-	-	-	1	1
ダウンライト	10	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9	-
電気冷蔵庫	10	-	4	-	1	2	-	-	-	-	-	2	1
研磨機(グラインダ含む)	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	2
直流電源装置(ACアダプタ含む)	8	-	1	-	-	2	-	-	3	-	-	2	-
蓄電池	7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2
白熱電球	7	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	6	-
その他の電気機器	164	16	25	-	24	18	8	5	12	6	5	22	23

(ア) その他の電気器具部分

その他の電気器具部分から出火した火災は、65 件 (16.3%) 発生しています。その他の電気器具部分とは、発火源部位の項目に該当していない部分を示し、例えば、ダウンライトや白熱電球のガラス球部分や蛍光灯の蛍光管部分などがあります。65 件のうち、「ダウンライト」が 9 件 (13.8%) 発生し、このうち押入れや洗面所などで布団やタオルを積み重ねてダウンライトに長時間接触して発生する「可燃物が接触する」が 5 件 (55.6%) 発生しています。次いで、「白熱電球」が 6 件 (9.2%) で、タオルや衣類等が接触する「可燃物が接触する」が 2 件 (33.3%) 発生しています。

また、「研磨機(グラインダ含む)」が 7 件 (10.8%)、「蛍光灯」が 5 件 (7.7%) 発生しています。

(イ) 充電部

充電部分から出火した火災は、44 件 (11.1%) 発生しています。

充電式電池の充電部からの火災が 19 件 (43.2%) と最も多く、前年と比べて 13 件減少しています。近年、タブレット端末、スマートフォンの普及や、これらの端末でゲームアプリなどを使用するため、外出先でも充電しようとモバイルバッテリーを持ち歩く人が多くなっ

ていることに起因しています。

(ウ) 電源コード

電源コード部分から出火した火災は、40件(10.1%)発生しています。

電源コード部分から出火した火災の主な要因は、物に踏まれたり折れ曲がった状態で使用されていたためにコードの被覆が損傷したり、長年使用したことによる経年劣化により、短絡や半断線が発生して火災となるケースが大半を占めています。

(エ) 器具内配線

器具内配線から出火した火災は、36件(9.0%)発生しています。

LEDの器具内の配線から出火した火災が5件(13.9%)、蛍光灯、コンピュータ(本体)、ネオン灯及び冷暖房機の器具内の配線から出火した火災が各2件(5.6%)発生しています。

カ トラッキング

最近5年間のトラッキング現象による火災の年別発生状況をみたものが表2-6-4です。

平成29年中のトラッキング現象による火災は98件で、前年と比べて2件増加しています。このうち差込みプラグ(器具の差込みプラグを含む。)の差し刃間での火災は、34件(34.7%)で前年と比べて6件増加しています。

差込みプラグのトラッキング現象による火災は、差し刃間の絶縁物上に湿気を含む塵埃などが付着した状態で電圧が印加*されると、沿面電流が流れ、小規模な放電が発生し、この放電による火花により絶縁物表面に導電性のあるグラファイト*が生じて火災に至ります。

差込みプラグ差し刃間のトラッキング現象による火災を防止するためには、「①差込みプラグは常時差したままにせず、使用時以外は抜いておく。②長期間差したままのプラグは定期的に点検するとともに乾いた布などで清掃し、発熱等の異常がある場合は交換する。特に埃や湿気が多い環境下で使われているものや、家具等の陰に隠れているものには細心の注意を払う。」などの対応が必要です。

表2-6-4 年別発生状況(最近5年間)

年別	電気火災件数	トラッキング火災件数 (電気火災に占める割合%)		差込みプラグ差し刃間の トラッキング火災件数
25年	1,111	86	(7.7)	32
26年	1,020	85	(8.3)	33
27年	1,047	88	(8.4)	36
28年	1,052	96	(9.1)	28
29年	1,152	98	(8.5)	34

注 差込みプラグの差し刃間のトラッキング火災件数は、「発火源が配線器具の差込みプラグで経過がトラッキング」、「電気設備機器(発火源が配線器具の差込みプラグを除く)のうち経過がトラッキングで発火源部位が差込みプラグ」の合計です。

(3) 火元の用途別火災発生状況

電気設備機器関係の火災を用途別にみたものが表 2-6-5 です。

表 2-6-5 火元用途別火災状況（最近 10 年間）

火元用途区分	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	前年比較	
合計	1,074	1,004	997	1,051	1,109	1,111	1,020	1,047	1,052	1,152	100	
用途	建物	438	396	398	434	466	511	453	458	488	537	49
	(%)	40.8	39.4	39.9	41.3	42.0	46.0	44.4	43.7	46.4	46.6	0.2
	住宅・共同住宅	515	499	484	493	515	466	447	444	426	479	53
	(%)	48.0	49.7	48.5	46.9	46.4	41.9	43.8	42.4	40.5	41.6	1.1
	その他（建物以外）	121	109	115	124	128	134	120	145	138	136	▼2
(%)	11.3	10.9	11.5	11.8	11.5	12.1	11.8	13.8	13.1	11.8	▼1.3	

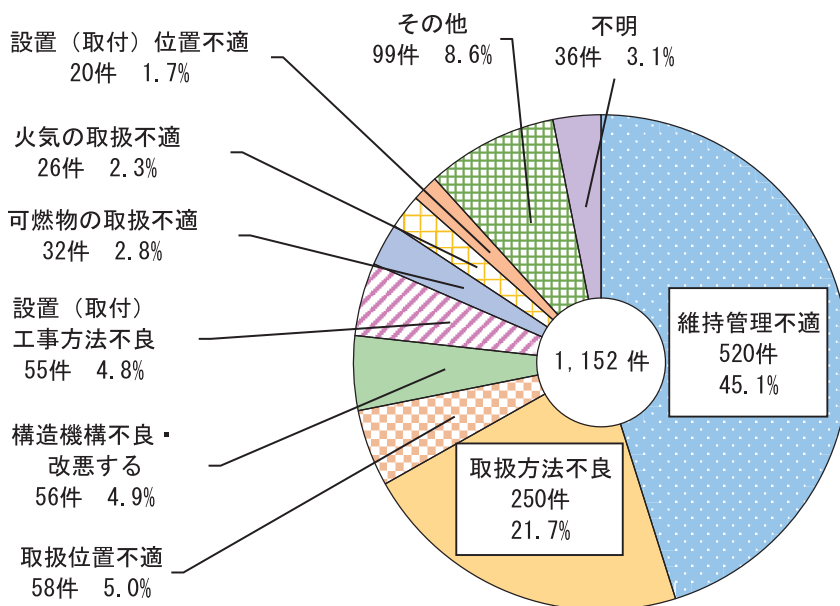
火元の用途をみると、平成 24 年までは政令用途対象物よりも、住宅・共同住宅での電気設備機器火災が多くを占めていました。しかし、平成 25 年からは逆転し、住宅・共同住宅よりも、政令用途対象物からの火災が多くを占めています。

また、住宅・共同住宅は減少傾向で推移していますが、政令用途対象物は増加傾向で推移しています。

(4) 出火要因別発生状況

電気設備機器関係の火災の出火要因について図 2-6-2 をみると、「維持管理不適」が最も多く 520 件（45.1%）となっており、「取扱方法不良」が 250 件（21.7%）、「取扱位置不適」が 58 件（5.0%）、などとなっています。

図 2-6-2 出火要因別状況



7 ガス設備機器

- ガス設備機器の火災における厨房関連設備機器の火災は95%以上を占めています。
- 全火災に対する割合が、最近10年間では13.3%で前年と比べて1.5ポイント減少。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「21 都市ガス」、「22 プロパンガス」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ガス設備機器」の火災とは、都市ガス及びプロパンガスを燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表2-7-1です。

平成29年中の火災件数は560件で前年と比べて28件減少しています。平成20年には800件台でしたが、平成21年には700件台に減少し、平成22年からは600件台で推移し、平成28年及び平成29年では600件を下回りました。

平成29年中は例年と同様に天ぷら油に起因する火災の占める割合が高く、使用者の放置や消し忘れなどに起因しています。「天ぷら油火災」については、「第3章1 天ぷら油火災」で詳細に分析しています。

表2-7-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	全火災件数	火ガス 災設 備機 器 数	全火災 に対する 割合 (%)	火災件数							損害状況				
				建物					船	そ の 他	焼 損 床 面 (m^2) 積	焼 損 表 面 (m^2) 積	損 害 (千 円) 額	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼	半 焼	部 焼	ぼ や							
20年	5,762	824	14.3	806	11	11	165	619	-	18	2,226	1,899	481,542	12	350
21年	5,598	769	13.7	748	12	13	113	610	1	20	2,556	1,638	470,373	14	319
22年	5,086	668	13.1	653	9	9	114	521	1	14	1,711	929	415,018	4	289
23年	5,340	647	12.1	631	10	12	95	514	-	16	2,038	986	451,650	5	263
24年	5,088	646	12.7	634	6	18	101	509	-	12	1,746	1,006	428,610	12	232
25年	5,190	631	12.2	620	11	7	93	509	-	11	1,719	737	293,474	7	231
26年	4,804	623	13.0	611	8	9	76	518	-	12	2,309	1,322	466,355	5	224
27年	4,430	694	15.7	681	8	11	101	561	-	13	2,102	1,352	363,408	9	252
28年	3,980	588	14.8	580	5	10	70	495	-	8	1,563	1,393	1,048,672	9	276
29年	4,204	560	13.3	549	6	9	82	452	-	11	2,119	824	719,562	7	194

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

(2) 主な出火原因

主なガス設備機器別の発火源と経過を表したものが表2-7-2です。厨房関連機器の火災は543件で、ガス設備機器の火災件数の97.0%を占めています。家事・季節関連機器の火災は7件、工業関連機器の火災は10件となっています。以下、主な設備機器ごとの出火原因についてみていきます。

ア 厨房関連設備機器

厨房関連設備機器の火災は543件（97.0%）発生し、「ガステーブル」、「大型ガスこんろ」、「ガスこんろ」、「大型レンジ」、「ガスレンジ」、「簡易型ガスこんろ」と上位6位までがこんろ部を有する調理器具で、合計487件（89.7%）となります。

出火の経過をみると、「放置する・忘れる」が272件（50.1%）で、厨房関連設備機器の火災の半数を占めています。「放置する・忘れる」の発火源をみると、「ガステーブル」が129件（47.4%）、「大型ガスこんろ」が69件（25.4%）、「ガスこんろ」が27件（9.9%）、「大型レンジ」が25件（9.2%）などとなっています。

表 2-7-2 ガス設備機器の発火源と経過

発火源		合計	放置する・忘れる	接炎する	可燃物が接触する	引火する	過熱する	火のついた油等が吸いこまれる	考え違いにより使用を誤る	伝導過熱する	火源が接触する	誤ってスイッチが入る（入れる）	可燃物が沸騰する・あふれ出る	火花が飛ぶ	本来の用途以外の用に用いる	可燃物を置く	その他	不明	
合計		560	272	67	44	40	28	17	15	10	7	9	8	6	5	5	18	9	
厨房関連	小計	543	272	65	44	36	28	17	15	10	3	9	8	-	5	5	17	9	
	ガステーブル	269	129	30	35	18	16	-	12	1	1	8	3	-	3	3	4	6	
	大型ガスこんろ	95	69	10	2	3	3	-	-	4	-	-	4	-	-	-	-	-	
	ガスこんろ	45	27	6	1	-	1	-	2	1	1	-	-	-	-	2	2	2	
	大型レンジ	32	25	4	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	
	ガスレンジ	24	15	2	-	2	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	
	簡易型ガスこんろ	22	3	4	1	7	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	4	1	
	無煙ガスロースタ*	18	1	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	フライヤ	10	1	2	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	給湯器	6	-	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	ガスロースタ（無煙を除く）*	5	-	2	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガスハースグリラー*	4	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガス炊飯器	4	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	その他の厨房関連	9	1	2	-	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
家事・季節関連	小計	7	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	ガスファンヒータ	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ガスストーブ	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	ガス衣類乾燥機	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工業関連	小計	10	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	6	-	-	-	-	
	ガス切断器	8	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	6	-	-	-	-	
	ガスバーナ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	ガスハンドトーチ*	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	

事例1 ガスフライヤの排気口内から出火した火災（7月）			
構造・用途等	耐火造 3/0 飲食店	出火階・箇所	1階・厨房
焼損程度	建物ぼや1棟 内壁若干、油かす若干焼損		
<p>この火災は、飲食店の1階厨房から出火したものです。</p> <p>出火原因は、ガスフライヤの排気口内に溜まっていた油かすにバーナの火が接炎し出火したものです。</p> <p>従業員が揚げ物調理中にガスフライヤの排気口から火が噴き出しているのを発見しました。火が噴き出しているのを見た同僚が建物にある粉末消火器と強化液消火器各1本ずつ持ってきて2人で初期消火をしています。</p> <p>通報は、客と従業員を避難させてから責任者が携帯電話で119番通報をしています。</p>			

イ 家事・季節関連設備機器

家事・季節関連設備機器の火災は7件（1.3%）発生しています。内訳は、「ガスファンヒータ」が3件（42.9%）で最も多く、次いで「ガストーブ」及び「ガス衣類乾燥機」が各2件（28.6%）などとなっています。経過別にみると「引火する」が4件（57.1%）で、次いで「接炎する」が2件（28.6%）などとなっています。

ウ 工業関連設備機器

工業関連設備機器の火災は10件（1.8%）発生しています。内訳は、「ガス切断器」が8件（80.0%）で最も多く、次いで「ガスバーナ」及び「ガスハンドトーチ*」が各1件（10.0%）などとなっており、経過別にみると「火花が飛ぶ」が6件（60.0%）、「火源が接触する」が4件（40.0%）などとなっています。

事例2 ガス切断器の火花が廃材に着火し出火した火災（2月）			
構造・用途等	解体中建物	出火階・箇所	1階・解体中建物
焼損程度	解体中建物の廃材焼損		
<p>この火災は、解体工事中的建物から出火したものです。</p> <p>出火原因は、工事作業員がガス切断器を使用して2階部分の鉄骨ばりを切断中に、火花が落下し、1階部分の朽ちた壁体の廃材に着火し出火したものです。</p> <p>近隣住民が解体中の建物部分から煙が上がっているのを発見し、119番通報しています。</p> <p>その後、他の住民と数回バケツに水を汲んで初期消火をしましたが、完全に消火はできませんでした。</p>			

(3) 出火要因別発生状況

出火要因別発生状況をみたものが表2-7-3です。以下、要因別にみていきます。

ア 火気の取扱い

「火気の取扱い不適」は242件で、全体の43.2%となっています。内訳は、「ガステーブル」が118件（48.8%）、「大型ガスこんろ」が56件（23.1%）などとなっています。これらのほとんどが、天ぷら油火災によるものです。

家庭や飲食店に限らず、揚げ物調理中にその場を離れないなど、火気の取扱いに十分注意し、住宅用火災警報器などの設置・維持管理を行い、万一に備えることが必要です。

表 2-7-3 ガス設備機器の出火要因

発火源		合計	火気の取扱い不適	取扱方法不良	維持管理不適	可燃物の取扱い不適	取扱位置不適	設置（取付）位置不適	設置（取付）工事方法不良	可燃物の貯蔵不適	その他	不明	
合計		560	242	138	75	54	23	8	2	2	7	9	
厨房 関連	小計	543	240	132	71	53	21	8	2	2	5	9	
	ガステーブル	269	118	73	22	35	5	3	2	1	4	6	
	大型ガスコンロ	95	56	23	7	4	4	1	-	-	-	-	
	ガスコンロ	45	21	13	3	3	3	-	-	-	-	2	
	大型レンジ	32	20	6	3	-	2	1	-	-	-	-	
	ガスレンジ	24	15	4	3	2	-	-	-	-	-	-	
	簡易型ガスコンロ	22	5	6	-	4	3	2	-	1	-	1	
	無煙ガスロースタ*	18	-	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-
	フライヤ	10	2	1	6	-	-	-	-	-	1	-	
	給湯器	6	1	1	2	1	-	1	-	-	-	-	
	ガスロースタ（無煙を除く）*	5	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	
	ガスハースグリラー*	4	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	
	ガス炊飯器	4	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-	
	その他の厨房関連	9	1	1	4	2	1	-	-	-	-	-	
家事・季節 関連	小計	7	-	-	3	1	1	-	-	-	2	-	
	ガスファンヒータ	3	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	
	ガスストーブ	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	
	ガス衣類乾燥機	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
工業 関連	小計	10	2	6	1	-	1	-	-	-	-	-	
	ガス切断器	8	2	5	-	-	1	-	-	-	-	-	
	ガスバーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	ガスハンドトーチ*	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	

イ 取扱方法

「取扱方法不良」の火災は 138 件で、全体の 24.6% となっています。内訳は、「ガステーブル」が 73 件（52.9%）、「大型ガスコンロ」が 23 件（16.7%）、「ガスコンロ」が 13 件（9.4%）などとなっています。火災へ至る経過として、ガステーブル等を使用中に別室で別作業をしたために、使用中であることを「放置する・忘れる」、ガステーブル等を使

用中に奥の物品を取ろうと手を伸ばして、着衣の袖などの「可燃物が接触する」などにより発生しています。

事例3 ガステーブルに卓上電磁調理器(IH調理器)を置いて使用し出火した火災(1月)

構造・用途等	耐火造 5/0 共同住宅	出火階・箇所	1階・台所
--------	--------------	--------	-------

焼損物件	建物ぼや1棟 着衣、ガステーブル、電気ケトル若干焼損		
------	----------------------------	--	--

この火災は、共同住宅の1階台所から出火したものです。

出火原因は、ガステーブルの上に置かれた卓上電磁調理器(IH調理器)のスイッチを入れようとしたが、誤ってガステーブルのスイッチを押したため卓上電磁調理器に着火し出火したものです。

ベランダで洗濯物を取り込んでいた2階の居住者は、1階から煙が出ているのを発見したので、1階の居住者へ知らせに行きました。

1階の居住者が自宅にいと、ドアを叩く音が聞こえたので開けると、火事の知らせを聞いたので、自宅でボールに水を入れて初期消火をしています。

通報は、火災を発見した居住者が携帯電話から119番通報しています。

ウ 維持管理

「維持管理不適」の火災は75件で、全体の13.4%となっています。内訳は、「ガステーブル」が22件(29.3%)、「無煙ガスロースタ*」が17件(22.7%)発生し、清掃不良により付着した油かすに着火したものや、火の点いた油などが吸い込まれ、ダクト内の油かすに着火して出火したものが多く発生しています。

エ 可燃物の取扱い

「可燃物の取扱不適」の火災は54件で、全体の9.6%となっています。内訳は、「ガステーブル」が35件(64.8%)、次いで「大型ガスこんろ」及び「簡易型ガスこんろ」が各4件(7.4%)、「ガスこんろ」が3件(5.6%)発生しています。特に、エアゾール缶や簡易型ガスこんろ用燃料ボンベのLPGに引火した火災が多く、ガス設備機器を使用中に害虫に向け殺虫剤を噴射したり、廃棄のための穴開けにより残っていたLPGが噴出して引火し出火しています。エアゾール缶や簡易型ガスこんろ用燃料ボンベは、可燃性ガスが充填されていることから取り扱いには十分注意しなければなりません。

オ 取扱位置

「取扱位置不適」の火災は23件で、全体の4.1%となっています。内訳は、「ガステーブル」が5件(21.7%)、次いで「大型ガスこんろ」が4件(17.4%)、「簡易型ガスこんろ」及び「ガスこんろ」が各3件(13.0%)などとなっています。特に、ガスこんろで寸胴鍋で調理中に、溢れた炎により壁体に伝導過熱し出火したものや、洗濯物を室内で干している直下にガスストーブを持ってきて使用し出火したものなどがあります。

これらの機器を使用する場合は、周囲の可燃物と十分な間隔を保って取り扱うことが必要です。

(4) ガス漏れ火災

ア 年別火災状況

平成29年中のガス漏れ火災は6件で、前年と比べて2件減少しています。

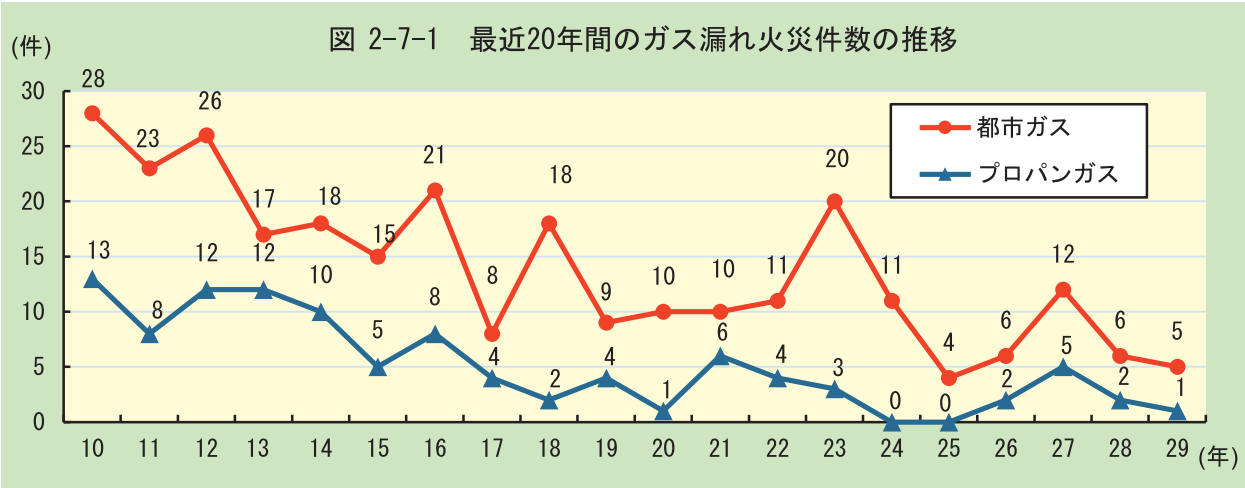
損害状況を見ると、焼損床面積及び焼損表面積はなく、損害額は2万9千円で前年と比べて2万円増加しています。

火災による負傷者はありません。

ガス漏れ火災の最近20年間の推移をみたものが図2-7-1です。都市ガス及びプロパンガスは増減を繰り返し、長期的にみると減少傾向にあります。

表 2-7-4 ガス漏れ火災年別状況

ガス 種 別	年 別	合 計	建 物					そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 (千円) 額	死 者	負 傷 者
			小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
都 市 ガ ス	20年	10	10	-	-	-	10	-	-	-	160	-	1
	21年	10	10	-	-	-	10	-	-	-	100	-	1
	22年	11	11	-	-	-	11	-	-	-	59	-	2
	23年	20	19	-	-	2	17	1	16	215	26,114	-	11
	24年	11	11	-	-	2	9	-	-	34	2,255	-	4
	25年	4	4	-	-	-	4	-	-	-	4	-	1
	26年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	10	-	-
	27年	12	12	-	-	1	11	-	-	1	55	-	1
	28年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	8	-	1
29年	5	5	-	-	-	5	-	-	-	29	-	-	
プ ロ パ ン	20年	1	1	-	-	1	-	-	-	2	50	-	-
	21年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	7	-	1
	22年	4	3	-	-	-	3	1	-	-	71	-	6
	23年	3	3	1	-	1	1	-	150	1	36,431	-	3
	24年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	25年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	26年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	5	-	-
	27年	5	4	-	-	1	3	1	-	4	182	-	2
	28年	2	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	5
29年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	



イ 要因別の状況

平成 29 年中のガス漏れ火災のガス漏れ要因をみたものが表 2-7-5 で、「ゴム管老化き裂」、「配管の接続不良」、「差し込み不良」、「点火失敗（反復）」及び「器具コック誤操作」が各 1 件（16.7%）などとなっています。

表 2-7-5 ガス漏れ要因の状況

ガス種別	発火源	ガス漏れ器具	合計	ゴム管老化き裂	配管の接続不良	差し込み不良	点火失敗（反復）	器具コック誤操作	その他
合計			6	1	1	1	1	1	1
都市ガス	ガステーブル	本体	1	-	-	1	-	-	-
		ゴム管	1	1	-	-	-	-	-
		ガスコック	1	-	1	-	-	-	-
	瞬間湯沸器	ガスバーナ	1	-	-	-	-	-	1
	給湯器	その他	1	-	-	-	1	-	-
プロパンガス	ガステーブル	ガスコック	1	-	-	-	-	1	-

8 石油設備機器

- 焼損床面積及び焼損表面積が前年と比べて増加しています。
- 損害額が、前年と比べて約1割と低くなっています。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「23 油を燃料とする道具装置」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「石油設備機器」の火災とは、石油を燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表2-8-1です。

平成29年中の石油設備機器による火災は40件で、前年と比べて8件増加し、最近10年間では増減を繰り返しています。

火災による死者はなく、負傷者は33人となっています。

火災種別をみると、建物火災が36件(90.0%)となっており、延焼拡大率(建物火災件数に占める部分焼以上の火災の割合)は41.7%で、前年に比べて6.0ポイント増加しています。建物火災全体の火災件数2,837件の延焼拡大率が22.4%であることから、依然として石油設備機器の火災は延焼拡大危険が高いといえます。

表 2-8-1 年別火災状況(最近10年間)

年 別	全 火 災 件 数	火 石 油 災 設 備 機 器 数 の	全 火 災 件 数 に 対 す る 割 合 (%)	火 災 件 数								損 害 状 況				
				建 物					航 空 機	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千 円)	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼	半 焼	部 焼	ぼ や								
20年	5,762	56	1.0	48	6	4	13	25	-	1	7	1,138	492	168,718	3	55
21年	5,598	58	1.0	48	9	3	11	25	-	1	9	1,261	377	175,561	5	35
22年	5,086	30	0.6	27	6	2	4	15	-	-	3	665	177	87,475	2	21
23年	5,340	47	0.9	40	4	4	9	23	-	-	7	735	1,199	146,227	2	25
24年	5,088	44	0.9	40	3	1	5	31	-	-	4	530	119	42,716	1	25
25年	5,190	54	1.0	46	10	1	10	25	1	-	7	1,051	264	106,019	2	30
26年	4,804	35	0.7	29	2	1	6	20	-	-	6	385	46	81,791	1	25
27年	4,430	36	0.8	31	3	2	3	23	-	-	5	294	31	26,423	-	24
28年	3,980	32	0.8	28	2	2	6	18	1	-	3	338	51	961,883	-	36
29年	4,204	40	1.0	36	4	-	11	21	-	-	4	864	282	92,131	-	33

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

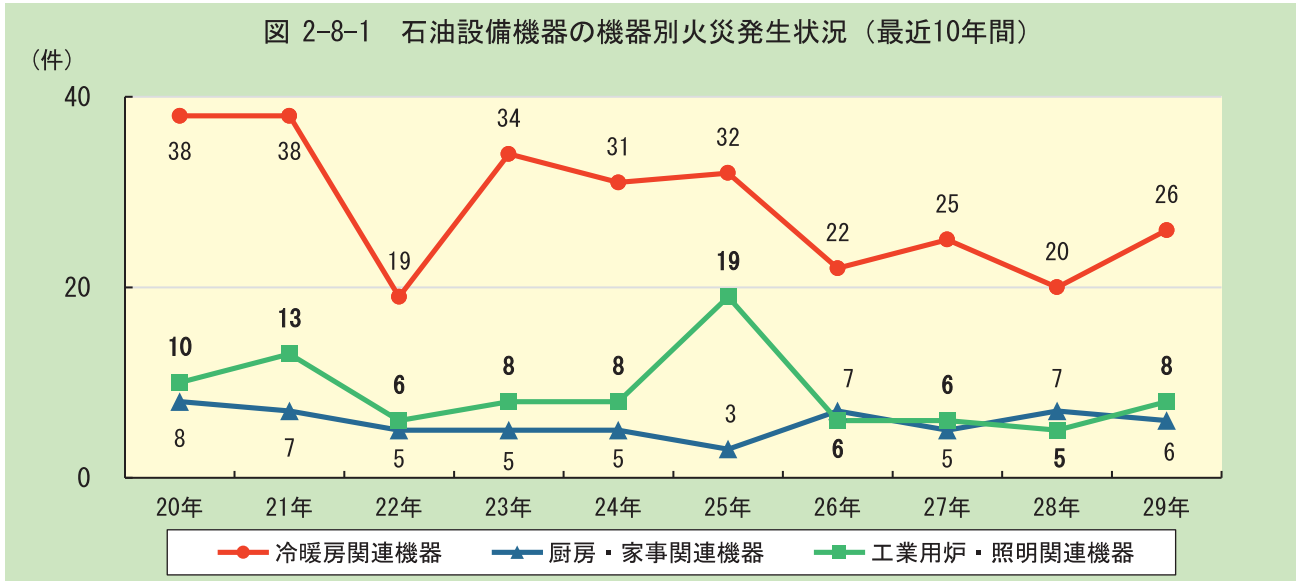
イ 機器別火災状況

石油設備機器のうち、機器別による火災件数の推移をみたものが図 2-8-1 です。冷暖房関連機器は 26 件、工業関連機器は 8 件、厨房・家事関連機器は 6 件発生しています。

冷暖房関連機器の火災は、平成 20 年及び 21 年には 38 件でしたが、最近 10 年間でみると、平成 26 年から増減を繰り返しながら推移しています。

厨房・家事関連機器の火災は、最近 10 年間ではほぼ横ばいで推移しています。

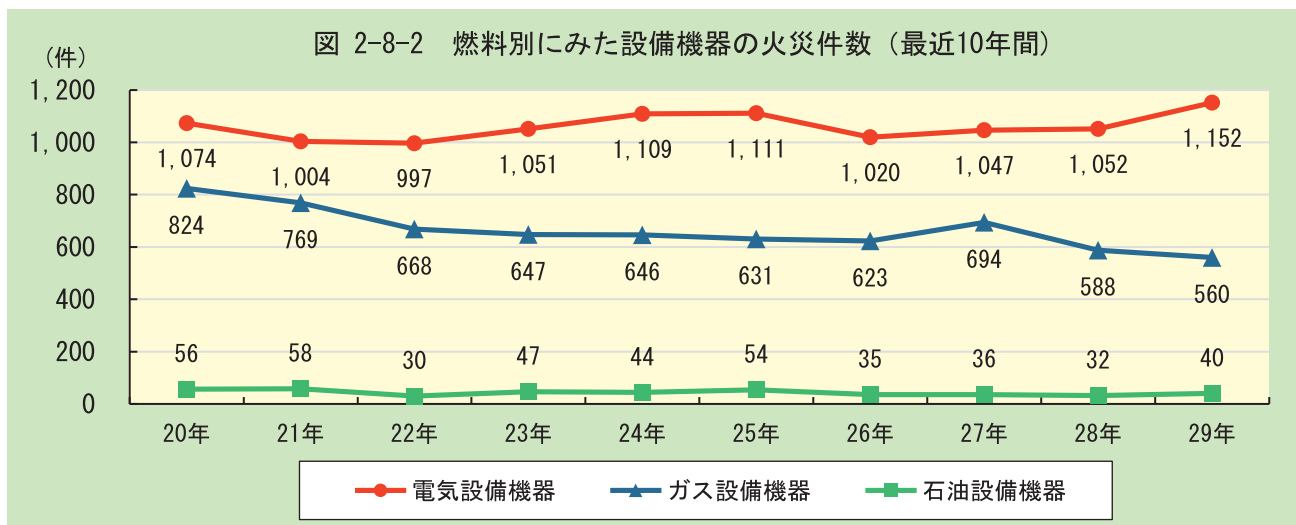
工業関連機器の火災は、平成 25 年を除き減少傾向を示していますが、平成 29 年は、若干増加しています。



注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

ウ 燃料別設備機器火災状況

最近 10 年間の電気、ガス及び石油設備機器別の火災件数を比較したものが図 2-8-2 です。平成 29 年中は、前年と比べて電気設備機器は 100 件、石油設備機器は 8 件増加しましたが、ガス設備機器は 28 件減少しています。



注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

(2) 主な出火原因

石油設備機器の火災とその発生経過をみたものが表 2-8-2 です。

表 2-8-2 石油設備機器別の出火に至った経過

発火源		合計	使用中給油する	引火する	可燃物が接触する	可燃物が落下する	燃料を誤る	過熱する	火源が腐食する	電線が短絡する	着火物が漏洩する	機械の調整が適当でない	火源が接触する	可燃物を置く	引火する	吹き返す	不明
合計		40	11	10	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2
関連機器	石油ストーブ	19	5	6	1	2	2	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-
	石油ファンヒーター	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	代用ストーブ ^注	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
関連機器	ボイラー	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	排水ポンプ	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	発電機	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	アスファルト溶解炉	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石油バーナ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
関連機器	アルコールこんろ	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アルコールランプ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石油ランプ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石油こんろ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

注 ここていう「代用ストーブ」とは、エタノールを使用する暖炉をいいます。

ア 石油ストーブ

石油ストーブの火災は19件(47.5%)で前年と比べて7件増加しており、石油設備機器の火災の半数近くを占めています。

出火原因をみると、そばに置いたエアゾール缶が過熱され破裂し、漏れたLPGに着火する等の「引火する」が6件、スイッチを切らずに継ぎ足し給油したため出火に至る「使用中給油する」が5件などとなっています。

事例	石油ストーブの燃料タンクから漏れた灯油に引火した火災（3月）		
構造・用途等	防火造 2/0 住宅	出火階・箇所	2階・台所
焼損程度	建物部分焼1棟 17㎡等焼損		
<p>この火災は、住宅の2階台所から出火したものです。</p> <p>出火原因は、居住者が石油ストーブの火をつけたまま燃料タンクを取り外し、補充したあとキャップが外れ、漏れた灯油に引火し出火したものです。</p> <p>居住者が石油ストーブを使用していたところ、燃料が入っていなかったので石油ストーブを消さずに燃料タンクを取り外し、灯油を補充しました。そのあと、タンクを元の位置に入れているときに石油ストーブの周りが濡れていることに気が付いたと同時に石油ストーブの周りから火がでました。</p> <p>その後、近隣住民が火事を発見して自宅の電話で119番通報しています。</p>			

イ 代用ストーブ

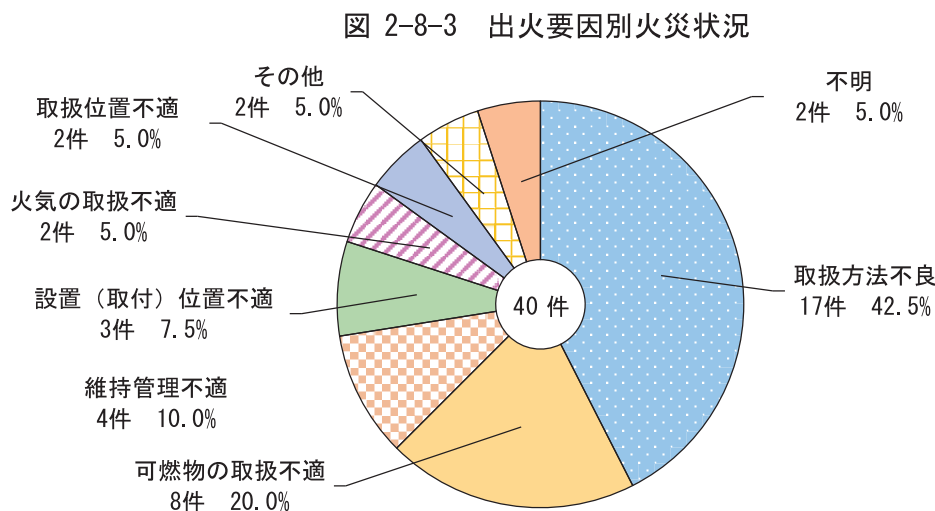
ここでいう代用ストーブとは、エタノールを燃料とした暖炉のことをいいます。煙突や配管等の施工が不要で、煙や煤の発生がなく、デザインが豊富でインテリアとして購入する方も多いようです。近年、インターネットなどでも販売され、安価なものから高価なものまであります。平成29年には3件の火災が発生し、暖炉使用中に燃料を給油したことにより、エタノールに引火し出火した事案が2件ありました。前年にも1件の火災が発生しており、暖炉を点火しましたが炎が見えにくく、燃料が不足していると思い込み、補充したために、実際は点火していた炎が燃料に引火し出火したものです。

ウ アルコールこんろ

アルコールこんろの火災は3件（7.5%）発生しています。出火原因をみると、「使用中給油する」が2件、「可燃物が接触する」が1件となっており、炎が消えたと思い込み、アルコールを継ぎ足したため引火し出火したものや、料理保温用に使用していたアルコール固形燃料を火がついたまま移動させようとしたところ、誤って転倒させてしまい出火したものなどがあります。

(3) 出火要因別発生状況

石油設備機器の出火要因別状況をみたものが図2-8-3です。



ア 取扱方法関係

「取扱方法不良」に起因するものは17件発生しており、石油設備機器の火災に占める割合は42.5%となっています。内容をみると、「使用中給油する」が9件、「引火する」及び「燃料を誤る」が各2件などとなっています。

イ 可燃物の取扱不適関係

「可燃物の取扱不適」に起因するものは8件発生しており、石油設備機器の火災に占める割合は20.0%となっています。内容をみると、「引火する」が4件となっており、居室内で使用中の石油ファンヒータ付近に置いていたエアゾール缶が、熱せられたことにより内圧が上昇し破裂し、漏れた液化石油ガスが石油ファンヒータの火で引火し火災となったものがあります。

ウ 維持管理不適関係

「維持管理不適」に起因するものは4件発生しており、石油設備機器の火災に占める割合は10.0%となっています。内容をみると、「引火する」、「火源が腐食する」、「可燃物が接触する」及び「吹き返す」が各1件となっています。

エ 設置（取付）位置不適関係

器具の「設置（取付）位置不適」に起因するものは3件発生しており、石油設備機器の火災に占める割合は7.5%となっています。内容を見ると「電線が短絡する」、「過熱する」、及び「火源が接触する」が各1件となっています。

オ 取扱位置不適関係

可燃物の「取扱位置不適」に起因するものは2件発生しており、石油設備機器の火災に占める割合は5.0%となっています。内容をみると、「引火する」及び「可燃物が接触する」が各1件発生しており、雑草除去のために使用した石油バーナの火が、建物外壁に接炎して出火したものがあります。

9 その他の出火原因

- ロウソクによる火災が46件あり、負傷者が25人発生しました。
- 布団等の再燃火災の火災件数が前年より10件増加しました。

ここでは、前述した出火原因以外で、火災件数の比較的多いものや、特異な出火原因についてみていきます。

表 2-9-1 その他の出火原因

出火原因	火災件数							損害状況				
	合計	建物					その他	焼損床面積 (m^2)	焼損表面積 (m^2)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
ロウソク	46	46	2	4	10	30	-	422	160	64,061	-	25
布団等の再燃	17	13	-	-	2	11	4	-	7	206	-	2
雷	12	6	-	-	2	4	6	-	33	13,010	-	-
収れん	8	5	-	-	2	3	3	12	6	1,980	-	-

(1) ロウソク

抽出条件：①発火源分類コード 「41701 ロウソク」、「41702 灯明」、「41703 ちょうちん」、「41704 灯ろう」、「41705 走馬灯」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

ロウソクによる火災(放火及び火遊びによるものを除く。)は46件で、前年と比べて2件減少しています。全て建物からの出火で、その用途をみると、住宅や共同住宅等の居住用途部分から43件(93.5%)発生しています。

図 2-9-1 ロウソクによる火災の経過

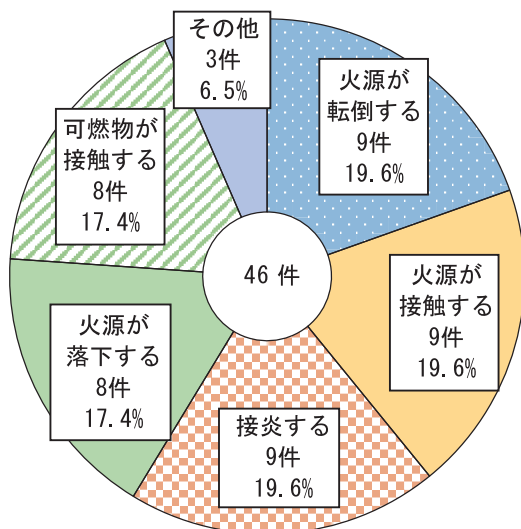
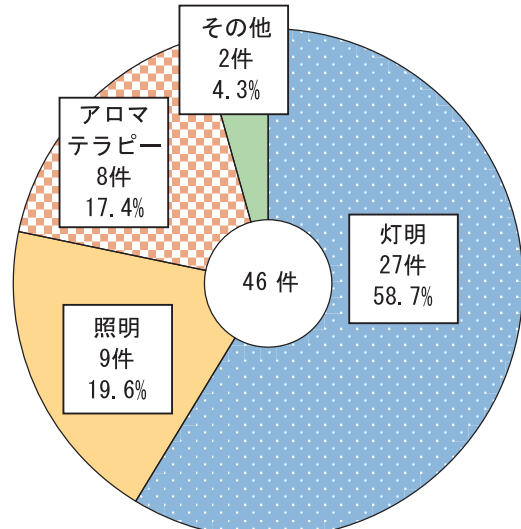


図 2-9-2 ロウソクの使用目的



ろうソクによる火災の経過をみたものが図 2-9-1、使用目的をみたものが図 2-9-2 です。

図 2-9-1 でろうソクによる火災の経過をみると、ろうソクが転倒し着火したものやろうソクが可燃物に接触したものと及び接炎したものが各 9 件 (19.6%)、次いでろうソクが落下して可燃物に着火したものや可燃物が動いてろうソクに接触したものが各 8 件 (17.4%) などとなっています。

図 2-9-2 でろうソクの使用目的をみると、「灯明」、「照明」、「アロマテラピー」に大別され、以下使用目的別にみていきます。

ア 灯 明

仏壇や神棚、祭壇等で使用される灯明による火災は 27 件 (58.7%) 発生しており、前年と比べて 2 件減少しています。

出火の経過をみると灯明が落下したものや接炎したものが各 6 件 (22.2%)、灯明が転倒したものや可燃物が動いて灯明に接触したものが各 5 件 (18.5%)、灯明が可燃物に接触したものが 4 件 (14.8%) などとなっています。

灯明の接触・転倒および落下の原因としては、灯明を不安定な状態で使用したり、灯明が溶けて短くなり、燭台近くの可燃物に接触したケースなどがみられます。

接炎や可燃物の接触では、仏壇内の狭い空間に灯明を供えることにより、その炎が供えてある可燃物に触れたものや、供え物をしようと手を伸ばした際に着衣に着火したことによるものなどがあげられます。

灯明の火が着衣に着火した火災は 5 件で、前年と同件数となっています。そのうち全てが 65 歳以上の高齢者によるものです。

事例 1 就寝中に使用していたろうソクが可燃物に接触し出火した火災 (1 月)			
構造・用途	防火造 2/0 長屋住宅	出火階・箇所	2 階・居室
焼損程度	建物ぼや 1 棟 布団 3、収納棚 1 焼損		
この火災は、長屋住宅の 2 階居室から出火したものです。			
出火原因は、火元者がアロマキャンドルを使用し就寝していたところ掛布団が何らかの要因でアロマキャンドルに接触し出火したものです。			
火元者は、住宅用火災警報器が鳴動したため、起きると布団が燃えているのを発見し、すぐに水道水をかけて初期消火をしました。			
火元者は初期消火後すぐに自身の携帯電話から 119 番通報しました。			

イ 照 明

電気の供給を止められた居住用途部分等で、明かりとして使用されたろうソクや、室内の雰囲気作りのために使用されたろうソクによる火災は、9 件 (19.6%) 発生し、前年と同件数となっています。

出火の経過をみると、ろうソクが転倒し可燃物に着火したものが 3 件 (33.3%)、ろうソクが可燃物に接触したものと接炎したものが各 2 件 (22.2%)、可燃物がろうソクに接触したものやろうソクの炎がガスに引火したものが各 1 件 (11.1%) となっています。

ウ アロマテラピー

様々な香りを手軽に楽しめ、リラクゼーション効果が得られるアロマテラピー(芳香療法)は、広く普及する一方でアロマテラピーに関連した火災が発生しています。

平成29年中のアロマテラピー用ロウソクによる火災は、8件(17.4%)発生し、前年と比べて1件増加しています。この火災による負傷者は6人で、前年と同人数となっています。

出火した用途別にみると、8件全てが住宅や共同住宅などの居住用途となっています。

出火の経過をみると、可燃物が動いてロウソクに接触したものやロウソクが可燃物に接触したものが各2件(25.0%)、ロウソクの転倒によるもの、ロウソクの落下によるものなどが各1件(12.5%)となっています。取扱場所が不適切で周囲の可燃物に着火したり、取扱いの不注意で立ててあったロウソクが倒れるなどして出火しています。

(2) 再燃火災

抽出条件：経過分類コード 「321 消したはずのものが再燃する」

ここでいう「再燃火災」とは、行為者が火災に対して消火行為を行い、消火できたと思われたものの、火種が残っていたため数時間後に再び燃え出して火災となったものをいいます。

平成29年中は17件発生しており、前年と比べて10件増加しています。再燃前の火災の発火源をみると、たばこによるものが10件(58.8%)と最も多く、このうち寝たばこに起因したものが6件(60.0%)で、たばこ全体の6割を占めています。

再燃前の火災の消火方法と再燃物品をみたものが表2-9-2です。

再燃物品をみると、枕や布団などの寝具類が16件(94.1%)と9割以上を占めています。最初に発生した火災の消火方法をみると、バケツなど容器に水を汲み、直接水道の水をかけて消火を行ったものが9件(52.9%)で半数以上を占めています。

容器に汲んだ水やコップに入っていた少量の水をかけたり、もみ消す・叩き消す・濡れたタオルを被せるといった消火方法では、布団類等の内部まで消火しきれず火種が残り、再燃する可能性があります。

表 2-9-2 再燃前の消火方法と再燃物品

再燃前の火災の消火方法	合計	再燃物品	
		寝具類	消したはずの紙
合計	17	16	1
直接水道の水をかけた	9	8	1
コップ・ポット・洗面器等の水をかけた	2	2	-
その他(もみ消し・叩き消した等)	6	6	-

事例2 寝たばこに起因する再燃火災（11月）			
構造・用途	耐火造 7/0 共同住宅	出火階・箇所	3階・ベランダ
焼損程度	建物部分焼 1棟 外壁 3 m ² 、敷布団 1焼損		
<p>この火災は、共同住宅の3階ベランダから出火したものです。</p> <p>出火原因は、火元者の長男が寝たばこした際、たばこの火種が敷布団に落下したので衣服を用いて叩き消しました。その後、敷布団をベランダに放置していたところ、完全には消えていなかった火種が時間の経過とともに再燃し出火したものです。</p> <p>火元者の長男は、焦げ臭いにおいにおい気付きました。ベランダに行くと、敷布団から煙が上がっていたので、水道水をかけて初期消火しました。</p> <p>通報は、火元建物を通りかかった通行人が煙に気づき、携帯電話から 119 番通報しています。</p>			

(3) 雷

抽出条件：経過分類コード 「841 落雷する」

雷による火災は 12 件で、前年と比べて 8 件増加し、そのうち直接雷 * によるものが 1 件 (8.3%)、間接雷 * によるものが 11 件 (91.7%) 発生しています。月別発生状況を見ると、7 月に 6 件、6 月、8 月に各 3 件発生しています。

火災種別と程度をみると、建物火災の部分焼が 2 件、ぼやが 4 件、その他の火災が 6 件となっています。

(4) 収れん

抽出条件：経過分類コード 「991 収れんする」

収れんとは、太陽からの光が何らかの物体により反射又は屈折し、これが 1 点に集まることをいいます。反射又は屈折により太陽光が 1 点に集中した場所に可燃物があると、発火に至る場合があります。

収れんによる火災は 8 件で、前年と比べて 2 件減少しています。発火源は凸レンズが 5 件、凹面鏡によるものが 2 件、反射板によるものが 1 件発生しています。月別発生状況を見ると 5 月に 3 件、12 月が 2 件、1 月、2 月、6 月に各 1 件発生しています。

火災種別は、建物火災の部分焼が 2 件、ぼやが 3 件、その他の火災が 3 件となっています。

事例3 部屋に置かれていたクリスタルボールに太陽光が収れんし出火した火災（2月）			
構造・用途	耐火造 12/0 共同住宅	出火階・箇所	7階・居室
焼損程度	建物部分焼 1棟 床面積 11 m ² 、内壁 5 m ² 等焼損		
<p>この火災は、共同住宅の7階居室から出火したものです。</p> <p>出火原因は、居室内に置かれていた、クリスタルボールにより太陽光が布団と焦点を結び、時間の経過とともに出火したものです。</p>			